



日本・インドネシアの若手ソーシャルリーダー育成・交流事業

GMB” Gerakan Mari Berbagi” （共に分かち合おう）プログラム

2015 事業報告書

特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

〒604-0866 京都市中京区両替町通丸太町南入西方寺町160-2 船越メディカルビル 3F
[TEL:075-468-8907](tel:075-468-8907) FAX:075-468-8908 E-mail:info@entreplanet.org

目次

1. お礼のご挨拶.....	3
2. 活動内容.....	4
3. 学んだことと、今後に向けて.....	10

1. お礼のご挨拶

2015年度の日本・インドネシアの若手ソーシャルリーダー育成・交流事業 Gerakan Mari Berbagi(共に分かち合おう)プログラムご支援いただき、誠にありがとうございました。

本事業は、インドネシアと日本の両国において、次世代を担う若者達が、異なる文化・価値観への理解や多様な視点を培う機会を通じて共に学びを共有することで、社会に貢献できる若きリーダーを育成することを目的として実施しております。

2015年度のプログラムでは、日本人の若手リーダー候補をインドネシアに派遣すべく、3月に書類選考や面接を経て研修候補生を選抜し、4月から事前研修を行い、最終的に5名の選抜生を8月28日から9月13日までインドネシアでの現地研修に派遣いたしました。

事前研修では、選抜生達は、異文化理解や国際支援に必要な会話、英語でのプレゼンテーション等の講座に加え、各自が興味を持っている社会課題分野の調査や現地で働く準備を行いました。また、実際に社会事業を持続可能な形で推進するにあたり必要な支援者や資金を集めるための起業家行動力を伸ばすために、ファンドレイジング活動にも挑戦し、渡航費の一部に充てました。インドネシアでは、ジャカルタでオリエンテーションを受け、NGO等を視察訪問した後、ジョグジャカルタに移動して、各自が関心ある社会問題の解決に取り組む公的機関やNGO NPO 法人などで研修し、多様な課題解決の実践的な手法について学びました。また、ジョグジャカルタでは、現地の大学生と一緒に渡航前から企画を練り、インドネシアでも大きな社会問題となっているゴミの処理方法について考えるワークショップを共同開催しました。

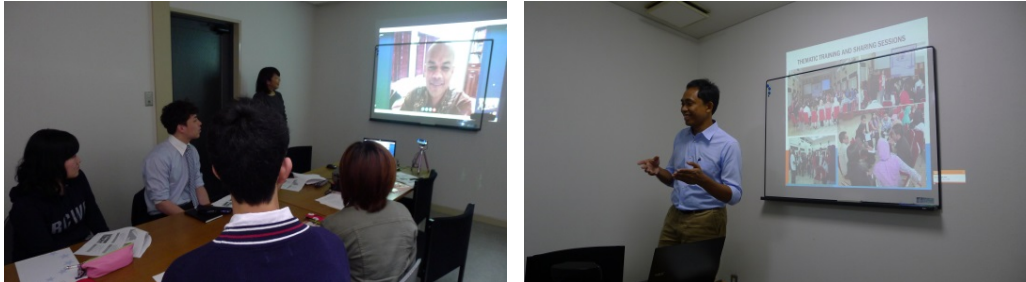

また、ジョグジャカルタでは現地の一般家庭でホームステイし、異なる文化や慣習、生活様式に触れると同時に、現地の人々との交流を通じて多様な意見や価値観に触れ、相互理解を深めました。ジョグジャカルタでのNGOでの研修中は、GMB インドネシアのプログラムに参加している現地の学生たちが、ボランティアとして研修先への送迎や案内、通訳などを積極的に担ってくれました。こうした同世代の若者たちとの密接な交流を通じ、互いの文化への理解を深めると同時に、言語や文化の壁を越えて、お互い信頼し協力し合える関係を築けたことは、選抜生達にとって大変貴重な経験となりました。


皆様には、このような学び機会を若き担い手たちに与えていただきましたこと改めて御礼申し上げます。今後とも引き続きご支援・ご指導賜れますよう、何卒よろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター
理事長 原田紀久子

2. 活動内容（2015年4月～2015年9月末）

本事業では、社会事業を推進する上で必要なスキルを取得するための事前研修を行った上で、インドネシアのNGOにて現地研修を行いました。インドネシアでは、8月28日～9月14日の約20日間のうち、首都ジャカルタに3日間滞在し、現地のソーシャルプロジェクトを視察した後、ジャカルタにてホームステイをしながら、各研修生の興味・関心に沿ったテーマに取り組んでいる現地のNGOにて約2週間のインターン研修に参加しました。

年 月 日	スケジュール
2015.1.5	2015年（平成27年）度の研修派遣生の参加者募集開始
2015.3.10	応募締切
2015.4.4&5	<p>書類選考合格者対象に Youth Leaders Workshop 2015 を実施</p> <p>現地カウンターパートナーの Dede Prabowo 氏による英語でのガイダンスを受けた後、インドネシア人留学生からインドネシアについての文化紹介をしてもらい異文化交流を楽しみました。また、チームに分かれてワークショップを行い、資金を調達するための課題に取り組みました。</p>
	
2015.4.19	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第1回研修会議</p> <p>各自の社会事業プロジェクトのテーマを共有した後、今後の資金調達活動についての目標設定・方法・今後のスケジュールについて話し合いました。</p>
2015.5.10	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第2回研修会議</p> <p>各自の社会事業計画の進捗状況を全体で共有し、今回の取り組みを今後のキャリアにどう繋げたいか、帰国後の活動も見据えて話し合いました。また第1回となる資金調達活動の映画上映会について、担当を決定し詳細について話し合いました。</p>
2015.5.24	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第3回研修会議</p> <p>現地滞在中に実施する予定のシンポジウムについて、現地の学生との意見交換の場で扱う社会問題テーマの設定やプログラムのコンテンツについて話し合いました。</p>
	

2015.6.4	<p>選抜生企画第1弾「幸せの経済学」上映・意見交換会開催</p> <p>立命館大学衣笠キャンパスの会議室にて自主上映会を開催しました。お集まりいただいた参加者の皆様と上映後、感想や意見交換をしました。</p> 
2015.6.14	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第4回研修会議</p> <p>各自の社会事業計画の進捗状況を全体で共有した後、第2回資金調達活動としての上映会について、内容を決定し、ターゲットや広報手段について話し合いました。</p>
2015.6.19	<p>日本最大級のクラウドファンด์サイト「JapanGiving」で資金調達活動を開始</p>
2015.6.26	<p>選抜生企画第2弾「アクト・オブ・キリング」上映・意見交換会開催</p> <p>同志社大学江湖館にて1960年代にインドネシアで起きた大量虐殺を再現したドキュメンタリー映画を題材に自主上映会を実施しました。交流会では参加したインドネシア人留学生からも意見を聞くことができました。</p>  
2015.6.28	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第5回研修会議「中間報告会」開催</p> <p>各自これまでの取り組みの成果と反省を発表し、今後の計画について共有しました。カウンターパートナーの Dede Prabowo 氏もスカイプで会議に参加し、アドバイスをいただきました。</p> 
2015.7.7	<p>GMB-Japan の Facebook ページ完成</p>
2015.7.12	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第6回研修会議を開催</p> <p>中間発表の反省会と今後の取り組みについて確認した後、非営利組織のお金の流れについて学習し、どうすればサポーターが集まるのか話し合いました。また、これまでの資金調達活動の反省を踏まえ、今後の計画について意見を出し合いました。</p>
2015.7.26	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第7回研修会議を開催</p> <p>各自の社会事業プロジェクトについて英語でのプレゼンテーション練習を行いました。また第3回資金調達活動で実施するインドネシア料理のレストランについて、これまでの資金活動の反省をもとに、より効率的で効果的なターゲットの絞り込みや広報方法について話し合いました。</p>

2015.8.7	<p>選抜生企画第3弾“Warung Indonesia ～インドネシア食堂～”開催</p> <p>京都市にある日替わり店長が体験できるレストラン「魔法にかかったロバ」にて、インドネシア人が作る本格インドネシア料理店を1日限定オープン。店内は沢山のお客さまで賑わいました。</p> 
2015.8.8&9	<p>Youth Leaders Workshop 2 回目開催 渡航前の研修を実施</p> <p>インドネシア特有の文化や習慣などインドネシア人留学生の Muna さんから講演していただきました。また衛生面、交通面など、現地での生活における注意事項を確認するなど渡航前ガイダンスを行いました。</p> <p>また最後の事前研修として、国際協力コンサルタント、コミュニティ開発専門家の原康子氏を講師としてお招きし、対話型ファシリテーションワークショップを実施し国際協力の現場で求められる「真実を問う力」を習いました。</p>  
2015.8.21	<p>選抜生によるオリジナルノート完成</p> <p>選抜生の一人が個人で取り組むファンドライジング活動として、オリジナルノートを作成しました。ターゲットは外国人観光客で、「Japan」をテーマにしたデザインになっており、売上は研修費用の一部に充てます。</p> 
2015.8.28	<p>ジャカルタに向けて出発</p> <p>ジャカルタ空港でカウンターパートの Dede 氏と GMB インドネシアチーム学生ボランティアの Desta さんが出迎えてくれました。</p> 

2015.8.29	<p>オリエンテーション/ソーシャルプロジェクト” Youth for Diffable” 見学</p> <p>GMB の創設者 Azwar 氏のオフィスにてオリエンテーションと歓迎会。GMB インドネシアチームの学生から現在取り組んでいる社会事業について発表してくれました。午後からは聴覚障害を持つ子どもたちのための学習支援事業、Youth for Diffable を見学。手話を教わったり、現地の子どもたちに日本のゲームを紹介したりしました。</p>  
2015.8.30	<p>ソーシャルプロジェクト” Sahabat Anak” 見学/高級百貨店・スラム街訪問</p> <p>ストリートチルドレンに教育機会を提供している学習支援団体の Sahabat Anak が主催するイベントを訪問。事業創設者の方を交えて意見交換を行いました。午後からは高級百貨店を見学した後、ジャカルタ市内のスラム街を訪れました。貧富の差を眼の当たりにするとともに、スラム街にある町内会のようなコミュニティ運営の仕組みを学びました。</p>  
2015.8.31	<p>ジョグジャカルタへ移動、ホストファミリーと対面</p> <p>ジャカルタを出発し、電車に乗ってジョグジャカルタに移動。駅では GMB ジャカルタメンバーで LO を務めてくれる学生や、ホストファミリーが出迎えてくれました。</p> 
2015.9.1&2	<p>研修生受け入れ先 NGO へ事前訪問 (グループで)</p> <p>世界で住宅支援を行う国際 NGO の Habitat for Humanity をはじめ、障害を持つ孤児のための養護施設 Sayap Ibu、貧しい子どもたちに教育機会を提供する Project Child や人権教育やアドボカシー活動を行う人権団体 LBH など、計 7 か所の研修先を訪問し、お世話になるスタッフの方々と今後のスケジュールについて打ち合わせをしました。</p> 

<p>2015.9.3-10</p>	<p>各自研修受入先でインターンシップ開始</p> <p>研修先で子どもたちにアートや英語、日本文化を教えたり、現地のボランティアスタッフとともに汗を流したり、専門家からレクチャーを受けたりと、大変有意義な研修となりました。</p>  
<p>2015.9.5</p>	<p>文化体験（ボロブドゥール遺跡・プラバナン寺院観光）／ “ソーシャルプロジェクト” Podo Nara” 見学</p> <p>世界最大級の仏教寺院ボロブドゥール遺跡、ヒンドゥー寺院プラバナン寺院群などインドネシアを代表する世界遺産を観光。夜はジャワの伝統舞踊を観賞しました。また GMB インドネシアチームの学生が取り組んでいる放課後の教育支援活動を訪問。子どもたちの前で日本文化や習慣などクイズを交えて紹介しました。</p>  
<p>2015.9.6</p>	<p>研修先 NGO の方々とお好み焼きパーティー／インドネシア伝統楽器体験</p> <p>研修先 NGO のスタッフの方や子どもたちを招待して、日本人研修生チームはお好み焼きを紹介。日本とインドネシア両国の食文化を紹介する文化交流イベントとなりました。午後からは近所でガムランというインドネシアの伝統的な民族音楽楽器の演奏を体験しました。</p>  
<p>2015.9.10&11</p>	<p>インターンシップ先にて研修のまとめの発表</p> <p>研修最終日には、それぞれ研修先でお世話になったスタッフの方々の前で、各自がこれまで取り組んできた社会事業について発表し、意見やアドバイスなど頂戴するとともに、現地での研修を終えて学んだこと・感じたことを報告しました。</p> 

2015.9.11	<p>ガジャマダ大学にてゴミ問題をテーマにしたワークショップ開催</p> <p>ゴミ問題に詳しい現地の専門家の方や、今回 GMB プログラムに助成して下さった国際交流基金の職員の方を招いて、ガジャマダ大学にて学生主体のワークショップを開催。日本人研修生は日本のゴミ問題への取り組みについて紹介しました。また、チームに分かれてゴミ問題を解決するための持続可能なビジネスモデルを考えるチャレンジに挑戦し、現地学生と意見交換を行いました。</p> 
2015.9.12	<p>送別会、研修全体を通して振り返り</p> <p>お世話になったホストファミリーや研修先のスタッフの方々を招いて、GMB プログラム全体を振り返り、一人ずつ感想とエピソードを語り、全体で共有しました。その後、これまで練習してきたソーラン節と、GMB のテーマソングを日本語・インドネシア語の両言語で披露しました。</p> 
2015.9.13	<p>ジャカルタから関西に向けて出発（14日関西空港到着）</p> <p>たくさんの思い出と一緒に帰国しました！！</p> 

3. 学んだことと、今後に向けて

このプログラムを通じて、参加研修生は、社会問題に取り組む現地 NGO でのインターン研修や、様々な社会プロジェクトを視察・見学する機会に恵まれ、身近な社会問題を解決するための新たな視点と手法を学ぶとともに、これまで事前学習で取り組んできた社会事業について研修後も継続してプロジェクトを推進していく上での必要な実践スキルを習得することができました。

また、ガジャマダ大学で行われたゴミ問題について考えるワークショップでは、社会問題に対し高い意識を持った現地学生が参加してくれました。渡航前から、現地学生と企画案を練ってきた日本の学生チームは、日本でのゴミの量削減への取り組みについて具体例を紹介するとともに、現地の学生と一緒に持続可能な新しいビジネスプランを考え、意見交換を行いました。このような機会を持ったことで、若い学生達が、身近な社会問題に目を向け、新しい視点から課題を解決するイノベーションの大切さを学ぶことができたと感じています。

同時に、5名の学生は、視察先や毎日の活動に同行し、日本人研修生達の滞在をサポートしてくれた現地の学生ボランティアたちとの日々の交流を通じ、彼らのホスピタリティや分かち合いの精神から多くのことを学び、国を超えた友情を培っていました。このような関係が、将来、国同士の友好関係を築くうえで大変貴重な基盤となることと思います。

そして、ジョグジャカルタに滞在中にお世話になったホームステイでは、受け入れ家族の皆様の温かいご理解とご協力のもと、現地の生活を体験することができました。学生達は、文化や習慣の違いに奮闘しながらも、家族同様に過ごした日々は忘れられないものとなりました。

今後は、参加研修生達は、帰国後も週に1度会議を開き、お世話になった NGO の活動を引き続き支援していく予定です。具体的には、現地 NGO の日本語版ホームページの作成や、資金調達活動支援など、お世話になった NGO に対して貢献していくべき活動を始めています。また、現在、来年春に来日予定の GMB2016 の6名のインドネシア研修生の滞在支援にも参画しています。

皆様のご支援のお蔭で、「共に分かち合う」という精神を持った次世代のリーダーが少しずつですが育ってきております。

GMB-Japan Program 2015



研修生個別レポート

(2015年9月末日)

2015年度研修生

轡見一佳里, 小森茉耶, 重村瑞穂, 藤原未来, 宿利原拓也

1. 轡見一佳里（早稲田大学商学部2年）

日時	研修内容
8/28 (金)	<p data-bbox="316 304 1011 383">今日、日本の羽田空港からインドネシアのジャカルタに飛び立ちました。飛行機は約7時間。</p> <p data-bbox="316 398 1011 622">空港で現地のインドネシアの学生が歓迎してくれました。なれない言語、英語でしゃべることにもなれていないのでコミュニケーションがうまくとれるか、おなかは壊さないか、など心配事は多々ありますが、とにかく何事にも積極的に頑張っていきたいです。</p> 
8/29 (土)	<p data-bbox="316 685 1011 909">今日はGMBの事務所にて歓迎会がありました。GMBの代表の方のお話のなかに、ホームステイ中、困難があると思うけれど、ぜひ異文化を体験してほしい、異文化を味わってほしいというものがあり、もっと積極的にインドネシアを体験してゆこうと感じました。</p> <p data-bbox="316 925 1011 1104">また、インドネシアのGMBメンバーたちがそれぞれ自分のプロジェクトを持っており、「自分が世界のリーダーになれる」と本気で信じていることに本当に感銘を受けた。自分も昔はそう思っていたのに、東京にきている壁にぶつかって、しまいには忘れていた心だった。</p> <p data-bbox="316 1120 1469 1294">今日は、現地の学生でとても良くしてくれているデスタニアさんとたくさん英語で話すことができた。英語があまり上手くしゃべれない私にあわせてデスタニアさんが、ゆっくりしゃべってくれて本当にありがたかった。他の日本のGMBメンバーのように流暢には英語を喋れないけれど、とにかくチャレンジする気持ちでぶつかってゆこう。</p>  <p data-bbox="1129 965 1353 992">GMB オフィス内にて。</p>

8/30 (日)

バスでの移動中、アグスという GMB のボードメンバーの方からアチェに起きた地震（津波）について教わりました。たくさんの方が一瞬にして死亡してしまい、彼女の故郷も流されてしまったそうです。統計上ではただの人数として表記される死亡人数も、その裏には人々の悲しい気持ちがこもっています。故郷がなくなる経験はとても辛いものでしょう。

そのあと、ストリートチルドレンを保護する団体に向かいました。この団体は各地にいるストリートチルドレンを、一箇所にあつめてイベントのようなものに参加し、お互いを交流させて勉強することの大切さを教えるもので、必要な子供には病気の手当も行います。実績として、6 人の子供が大学に行っています。いじめ問題について聞いたとき、ここにもいじめはある、と語っておりとても意外な気持ちになりました。また、原田さんが質問していた、NGO としての資金調達面も気になるところがありました。たしかにここまでの規模のイベントを行うことはトップの方々の相当な努力と情熱があつてのことですが、このイベントが長く続かなければ子供たちの将来が危うくなるのは確かです。

次にスラム街を訪れました。私は去年の夏にフィリピンのセブ島のスラム街に 2 週間ほど行っており、スラム街にはある程度なれていましたが、このインドネシアのスラム街もフィリピンのそれと大きく変わらず、モノが煩雑としていました。人々はスラム街から出たがらないのだそうです。それは、住むのが無料かつほかに住む家もないから。スラムの中の子供たちはパワフルで、それは大人も同じで。去年のフィリピンでも感じたことですが、そんな彼らのパワフルさや明るさを見ているとなんだか自分の国の方が病んでいるような気がしてしまいます。決してスラムに住むことが良いというわけではないけれど、日本の死因 7 位にあがっている自殺をする人なんてスラム街には絶対いないと思います。この明るさを残したまま、経済成長することができるとしたら、どうしたらよいのかこれから考えていきたいと思います。

また、英語で R と L が発音できず非常に悔しい思いをしました。デスタさんに教えてもらって、夜遅くまで二人で練習しました。



スラム街にて

8/31 (月)

今日はジャカルタからジョグジャカルタに移動しました。途中の列車の中で、どんどん農村地帯に入っていく、電気もまともに通っていないような村もありました。しかしそんな村でも水道設備はわりとしっかりしているように感じました。ジャカルタには全く畑がなく、本当に都会といった感じなので、ジョグジャカルタだけが都市化が急激に進んでいるということは本当なのだとこの身で実感しました。

ジョグジャカルタに着いたあと、GMB のメンバーに歓迎されて無事ホストファミリーに会うことができました。ホストマザーとファザーは英語をしゃべることができず、デデさんたちが私の家から出るときには正直、置いていかないで！と思いましたが、これからこの家で私ができることを考えて行動していきたいです。



歓迎してくれるジョグジャカルタの GMB メンバーたち

9/1
(火)

本日から 2 日間、現地のインターンシップ先の NGO を訪れます。まず初めに宿利原さんがインターンを行う予定の「Habitat for Humanity」を視察。大きめの建物、細部までインテリアにこだわっており（ハビタットの歴史などを壁に貼り付けてあり）多くの訪問者があり栄えている NGO なのだということが伺えました。職員の方の英語も流暢で聡明な方なのだと思います。ハビタットは世界中に支部があり、様々な国からボランティアも募集し、現地で家など建てる支援をしています。目に見えた成果が表れるため、短い期間でも達成感が味わえ、大学生の夏休みなどに人気のボランティアです。日本にも「ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン」として支店があります。



Habitat for Humanity の事務所前にて

その後に訪れた NGO は Sayap Ibu (サヤ・イブ)。障害を持つ孤児を支援する施設です。サヤ・イブは小森さんのインターン先になる施設です。小森さんは日本でも障害者の就労支援施設などの福祉施設を訪問し、現地での研修に向けて準備を行っていました。サヤ・イブには多くの障害を持つ子供たちがいました。年代が高め



Saya ibu の事務所にて

(10代後半～20代)の子供だけでも 27 人。その子供たちの世話を決して多くはないスタッフの方が行っています。小森さんがインドネシアに来る前、サヤ・イブと連絡をとろうと思い E-mail を何度も送ったそうですが、まったく返信がなく、困ったと言っていました。返信がなかった理由は、重度の障害をもつ男の子の世話が忙しかったからだったそうです。その子はベッドの上で眠っており、危険な状態になる時がしばしばあるようで、目が離せられないそうです。スタッフの方は、重度の障害を持つ子どもにまるで看護師のように接していました。その仕事に始まり、外部との連絡、ほかの子供たちの世話や教育、また資金調達や広報活動まで本当に多くの仕事を少ないスタッフの中でやっていかなければなりません。日本の NPO・NGO が抱える問題と同じですが、どこの世界でも NPO・NGO は人手不足・資金不足に悩まされています。

また、サヤ・イブの子供たちが創作活動をしている美術室も訪れました。商品にできそうなほどきれいな作品が制作されており、子供たちが自分の手でお金を稼ぐことも可能ではないのかと感じました。

この日は私のインターンシップ先である Stichting Jogja という NGO にも訪問しました。Stichting Jogja はお金がなく、塾に行けない子供たちのために英語を教えるフリースクールのような学校です。私が到着したとき、子供たちは英語を教わっていましたが、明るくかつ熱心に英語を教わっていました。ボランティアスタッフの方が優しく歓迎してくださり、緊張していた私はとりあえず一安心しました。



スティッチティンクのスタッフの方と

9/2
(水)

本日も NGO 見学を行いました。まず一つ目の団体は LBH という人権問題を扱っている NGO です。こちらは重村さんのインターンシップ先です。LBH では、過去人権問題関係で犠牲になった方々の説明を 10 人ほどしていただきました。途中自分の英語力が乏しく、理解ができない点もあり、英語の学習を早急に行わなければならないと身に染みて感じました。人権問題で亡くなった方の中には、女性の方も多くおり、女性が声を上げることにより社会への影響力が強くなることもあるのかもしいないと思いました。その後、重村さんの 3 つめのインターンシップ先に伺いました。



壁に犠牲者の方のポスターが

最後に藤原さんのインターンシップ先である「Project Child」に行きました。スラム街の子供たちの教育を支援する NGO のようです。非常に元気な子供たちがたくさんおり、授業の大変さがうかがえます。また、ボランティアの方も多くいました。

夕食はホストシスターとともに、近所の食堂のようなところに出かけました。そこで一人のお母さんと出会い、なぜ今インドネシアにいるの？と聞かれました。私はインドネシアの現状を見てみたいからだ、と答えましたが、そこからお母さんのお話が始まりました。インドネシアでは現在貧富の差が大きく開いており、裕福な人はとことん裕福だけど貧しい人はとても貧しい、こうして若い外国人の方がホームステイを行っているのは本当に良いことだと思う、というようなことを話しました。私は精一杯努力している人が報われるような社会にしたいなと感じました。



プロジェクト・チャイルドにて

夕食はホストシスターとともに、近所の食堂のようなところに出かけました。そこで一人のお母さん

と出会い、なぜ今インドネシアにいるの？と聞かれました。私はインドネシアの現状を見てみたいからだ、と答えましたが、そこからお母さんのお話が始まりました。インドネシアでは現在貧富の差が大きく開いており、裕福な人はとことん裕福だけど貧しい人はとても貧しい、こうして若い外国人の方がホームステイを行っているのは本当に良いことだと思う、というようなことを話しました。私は精一杯努力している人が報われるような社会にしたいなと感じました。

9/3
(木)

今日はインターンシップ 1 日目です。私は 4 つの授業を受け持ちました。1 つは 5 歳から 7 歳の子供に教える「レインボウ」クラスで、私は折り紙でハトを折る折り方を教えました。2 つ目は 10 歳の子供に教える「サマー」クラスで、ここでは日本語を教えました。現地の大学生であるオジールが日本語を教えることを手伝ってくれたので滞りなく教えることができました。3 つ目は中学生に向けての「マリオブロス」クラスです。ここではカードゲームを子供たちと行いました。最後に働いている大人に英語を教える「ワーカー」クラスを行いました。ここでは今日はただ自己紹介するだけに終わりました。



スタッフのアリさんアユさん

またワーカークラスのまえに、Stichting Jogja のホームページのデザインや記事のアップロードを試みましたが、この日はネットの接続があまりよくなかったためあまり変更することができませんでした。

子供たちのクラスでは、教えたことをすぐ忘れるのが問題だと、スタッフの一人であるアユさんがおっしゃっていました。また、労働者のクラスでは、みんな英語自体を理解することができるのに、何人かの人にはあまり話そうとしておらず、日本でもおきているような「失敗することを恐れている」傾向があるのかもしない、と感じました。その一方で、積極的に英語を話す大人もおり、その差はおおきいと感じました。

子供たちのクラスでは、教えたことをすぐ忘れるのが問題だと、スタッフの一人であるアユさんがおっしゃっていました。また、労働者のクラスでは、みんな英語自体を理解することができるのに、何人かの人にはあまり話そうとしておらず、日本でもおきているような「失敗することを恐れている」傾向があるのかもしない、と感じました。その一方で、積極的に英語を話す大人もおり、その差はおおきいと感じました。

9/4
(金)

今日はインターンシップ2日目です。今日は実験として朝に目標をもうけることを行いました。目標は「お母さんとインドネシア語でたくさん話す・Stichting Jogja のサイトを編集する・日本語のプレゼンテーションをつくる・日記をつける」というものです。結果として、目標すべてを完遂することができ、目標を立てるのと立てないのでは一日の密度がまったく違うな、と感じました。そして一日に取り組むことが明確になっているため、取り組みやすかったです。



スタッフの一人、アユさん。彼女は低学年の生徒の指導をしています。

Stichting Jogja では、アユさんが NGO 運営の困難さについて語ってくれました。アユさんの考えている授業の形態がボスが考えているものと違い、そこで食い違いが起きているということでした。アユさんは子供たちが学校帰り疲れしているので、授業に楽しさを入れようと工夫を行っていますが、ボスはもっと教科書の中身を忠実に教える授業の方がよいと、それに反発しています。アユさんは授業についての報告を月に一回ボスに送り、同時に様々な苦情対応をしてゆかなければならないので、運営が大変だとおっしゃっていました。NGO にある問題の一端がここにあると感じました。

インドネシアにいと、東京で考えていたことを改めて考え直すきっかけに多く出会います。東京で私は大きな夢を語ることをだんだん恐れていました。本当は国際関係の仕事に就きたいけれど、今の学力が低くて、とにかくどこでも就職できればいいや、幸せな家庭を持つことができればそれでいいや…、と。いろんな人に反対されて批判されて、私は自分の夢を追いかけることを半ば面倒になっていたのだと思います。しかし、インドネシアに来てやはりそれではいけないんだと強く感じています。私の人生は私だけのものだし、いまのインドネシア人や Stichting Jogja のスタッフの方々のように、誰かのためにできる仕事は絶対にある、しかしそれにはそれ相応の努力が必要なんだと思いました。もちろん幸せな家庭を築くこともとても大切なことですが、まずその前に自分の追いかけていた夢をかなえるために努力をしようと思っています。

9/5
(土)

今日はジョグジャカルタの観光に出かけました。ポロブドゥール、プランバナンなど有名なところめぐり、また舞踊の観光もしましたが、一番印象に残った場所は、プランバナン近くの学校です。



学校。男の子が隅の方に固まっており、女の子は一列に正座している。

この学校は、GMB のメンバーの何人かが夢の大切さや英語について教えている学校で、土曜日のみ開校されるようです。生徒はふだんイスラム教の学校に通っている子供たち。女の子は 15 人くらい、男の子は 10 人くらいで中学生から高校生くらいです。まず印象的だったのは、女の子は一列にきれいに並び、男の子は一か所に固まっていること。イスラム教のイメージでは、普通逆のような気がするのですが、男の子たちはただ恥ずかしがっているだけなのか、それとも女の権力の方が強いのが気になりました。

そして、本当に驚いたのが、生徒たちが自分の夢を堂々と英語で語っているということでした。医者になりたい、サッカー選手になりたい、記者になりたい…、みんなそれぞれ恥ずかしがりもせず自分の夢を堂々と語る姿は日本の学校ではあまり見ることができないのではないかと思います。また、私が現在インターンシップを行っている Stichting Jogja でも、ここまで立

	<p>派に英語で話すことはないのではないかと思います。</p> <p>夢を語れたり英語を話せたりするのはもちろん、この学校や GMB の活動の効果かもしれませんが、しかしそれでも聡明な子供たちが多く、きっと普段通っている学校での教育の質が Stichting Jogja の子供たちと違うのではないかと推測します。それはお金がないから私立の良い教育をしてくれるところに行くことができないのではないのでしょうか。</p> <p>Stichting Jogja のスタッフの一人のアユさんが、「インドネシアではお金があればあるほど良い教育を受けられる。」と語っていました。日本でも、かなり似たようなことはありますが、ここまで差は大きくないかと思います。インドネシアが抱えている現状を少し垣間見た気がしました。</p>
<p>9/6 (日)</p>	<p>今日は朝からお好み焼きパーティを行いました。場所はデデさんと原田さんのホストマザーのお宅。早朝から、ホストファミリーがパーティのための準備を行ってくれて、チキンを3羽ほど殺し、おいしいソトアヤムというメニューを作ってくれました。</p> <p>私は原田さんたちと市場に買い出しに出かました。</p> <p>お好み焼きの準備は、学生が主体的に活動を行ってくれ、みんな手分けして、大量のキャベツやエビを切るのを手伝ってくれて本当にありがたかったです。</p> <p>私のインターン先である Stichting Jogja の方々が到着し、パーティが始まりました。Stichting Jogja の生徒がインドネシアの食べ物を持参してくれ、食べ物がたくさんある食卓となりとても賑やかなパーティでした。</p> <p>午後から、海に行く予定だったのだが時間がなく行けず、帰宅。そののち、ホストシスターからいとこ遊びに来るとのことで、一緒に出掛けました。いとこはおいしい中華料理屋に食べに行き、その後光る車に乗りました。</p> <p>(左) きらきらと光る車。</p>
<p>9/7 (月)</p>	<p>インターン3日目。6時に起床し、朝ごはんを食べて8時頃から午前中は原田さんのホストファミリーのお宅へお邪魔しました。ホストファミリーのお宅ではパソコンを使ってインターンに向けての準備を行い、ホームページのアップロードを行いました。お昼ご飯は原田さんとデデさんのホストマザーが作ってくださったご飯を堪能(スープとテンペイとキャッサバのような食べ物とご飯)し、そのあと LO のマンダが迎えに来てくれ、インターン先に向かいました。NGO には14時頃に到着しました。ワユさんが早くきて、部屋の掃除を行っていたので手伝いをしました。パワーポイントのケーブルがないことに気づき1時間ほど探しましたがどこにも見つからず、相当な時間をロスしましたが、結局アリさんが持っているという結末に。授業は映画を見ました。</p> <p>ワユさんが、先日のお好み焼きパーティでデデさんと話した際に、デデさんは Stichting Jogja が今置かれている、ボスとの連絡や過労、という現状をよく理解してくれていたと話していま</p>



お好み焼きパーティーの様子



午後から、海に行く予定だったのだが時間がなく行けず、帰宅。そののち、ホストシスターからいとこ遊びに来るとのことで、一緒に出掛けました。いとこはおいしい中華料理屋に食べに行き、その後光る車に乗りました。

(左) きらきらと光る車。

した。

そのうち、ホームページの編集作業を行いました。現在のホームページは黒をメインカラーとしていて全体的に暗い雰囲気になってしまっているため、今回リメイクするにあたって **Stichting Jogja** のメインカラーであるオレンジを基調とした、明るいデザインにしたいと思いました。また、写真を多用して目で見て楽しめるデザインにしたいです。そのためには幾つかの習得しなければならないワードプレスに関する知識もあるが、この渡航中も、もちろん渡航後も **Stichting Jogja** に少しでも貢献できるような素晴らしい **HP** を製作していきたいです。また、日本についてのアクティビティを行う日取りも決定しました。急遽、4つのクラスでプレゼンテーションを行うことになりました。忙しいかもしれないけれど、全力を尽くしていきたいです。

17時あたりになったとき、アリさんとワヤさんがボスに電話で呼び出されていて、授業が放置状態になっていました。生徒は英語を勉強したいと思ってきているのに、授業ができないことはアリさんやワヤさんにとって一番つらいことなのではないだろうかと思いました。

夕食は藤原さんの大学のゼミの先生がいらっしゃって、一緒にごはんを食べさせていただきました。初めて行った店で、トランスジェンダーの方が経営している店でした。装飾は派手でお店の店長（トランスジェンダーの方）のポストカードをお土産でもらえるシステムでした。行列ができるほどの人気店で、インドネシアのホモやトランスジェンダーに対する寛容さを伺うことができました。

そのあと **LO** のマンダのバイクに乗って家に帰りました。途中で、マンダが「愚かな人なんていない。みんな賢いし、みんながそれぞれの才能を持っていて、それはそれぞれ違うもの。」と、道から危うく外れるほど知っている英語で一生懸命熱っぽく語っているのを聞いて、国籍は違うし、肌の色も顔も違うけれど、理解し合えることは絶対ある、となんだか嬉しくなりました。また、彼が一番流暢に話せるインドネシア語で私も話せたら、どれだけ興味深い会話ができるのだろうと思いました。

家に帰ると、お母さんがパイヤをご馳走してくれました。また、クリーニング屋さんがマッサージをするために家に来ていました。日本にあったはずの、当たり前のご近所同士の付き合いがこんなにも少なくなってしまったのは、一体いつからなのでしょう。私のホストファミリーが普通にテーブルの上にお金をおいているのを見て、私のことを信用していただいているのかなと感じます。ホストマザーが少ない英語で必死に私に何かを伝えようとしてくれるとき、心が温かくなります。ホストシスターが日本語を勉強しようとしてくれる時、私もインドネシア語を少しでも話したいと思います。そのため、家で1時間ほどインドネシア語を学習しました。

日が経つほどに、インドネシアの人の人柄がどんどん好きになっています。毎日、日本にいたときの3倍以上笑っています。だんだん東京に帰りたくなくなってきました。経済が発展すると、近所づきあいや親戚づきあいが少なくなるのはなぜなのでしょう。また、なぜ人は冷たくなっていくのでしょうか。日本が今のインドネシアのジョグジャのような暖かい気持ちをもつことは、日本にとって良いことなのでしょうか。ジョグジャもジャカルタと同じように、都市化するとこのような暖かい気持ちはなくなってしまうのでしょうか。今のこの感情を日本に帰国してからも考え続けて、何かしらの答えを見つけたいです。

9/8 (火)	<p>インターン4日目。6時20分ごろ起床。ホストファミリーと一緒に朝食をとりました。8時ごろ、デデさんのホストファミリーの家に向かいました。2時間ほど今日の日本についてのプレゼンテーションの準備を行い、その後デデさんのホストマザーがとてもおいしい昼食を作ってくれました。</p> <p>その後、インターンに向かう（13時20分ごろ）マンダと話しているときに、日本の銀行の知識について尋ねられました。最も大きい日本の銀行は何？それは国有企業なの？、など銀行についての基礎的な知識が問われるものでした。私は即座には答えることができず、「経済学を学んでるんでしょ？」と言われました。インドネシアの学生はとても積極的に物事を学んでおり、大学でも日本とは比べることができないほど勉強するのでしょうか。日本の大学ではサークルなどで遊び、大学の授業は面白くないのでインターンやサークルなどに打ち込むことがほとんどです。そして社会に出て、定期的に働き続けます。だから大学生活は人生の夏休みと言われています。しかし、インドネシアの学生を見ていると、私が大学でただ遊んでいるだけでいいのかと感じます。インドネシアの学生は、自分が将来インドネシアの将来を背負うと信じており、この国のリーダーになると本気で信じています。彼らを見ていると『坂の上の雲』で読んだ、明治期の日本人の気概を感じます。そして私は、その時の幾人かの外国人が日本人に何らかの技術を教えたおかげで歴史が変わったように、彼らに何か教えることができる何かを習得したいと考えています。</p> <p>Stichting Jogja では、インターンの活動を行いました。まずは部屋の掃除から。その後、アユさんのお話を聞きました。アユさんとアリさんの授業数が増えるそうです。登録していない生徒も増えており、ますます仕事は増えるばかり。私にできることはHPの修正とプレゼンテーションの準備をすることくらいなので、できることはベストをつくそうと誓います。日本についてのプレゼンテーションは、自分の感覚としてうまくいかなかったと思います。その理由は、一つ目は生徒の需要に合った情報を入れることが出来ていなかったことです。私は東京や漫画、食事などの簡単な目で見えて楽しいものを紹介しましたが、そのような情報を生徒は知り尽くしており、生徒が知りたいことは忍者や侍、日本の歴史、韓国に対する意識など、より専門的な情報でした。それらを英語で即興で答えることは難しいため、明日のプレゼンテーションにはきちんと準備していきたいです。</p> <p>マンダが迎えに来てくれて、バイクで帰宅しました。帰宅途中、お互い英語はそんなに話せるほうではないけれど、それでもコミュニケーションがとれることはすごくうれしいです。プレゼンテーションがうまくいかなかったこと、インドネシア語に力を入れて頑張っていきたいです。</p>
9/9 (水)	<p>今日は、午前中 LO のマンダと原田さんとともに海に行きました。海はとても大きくて、自分の悩みがとてもちっぽけになる気がしました。</p> <p>インターン5日目。インターンシップでは2つの日本についてのプレゼンテーションを行いました。私のクラスでは生徒があまり英語を理解することができないのでとても注意深く話すことを意識しました。宿利原さんに加勢していただいたおかげで、日本の歴史や武士についての紹介もできてプレゼンテーションは昨日よりうまくいきました。そのあとディディムとマンダと宿利原さんが、明後日に行われるワークショップについての議論を交わしていました。</p>



ジョグジャカルタ郊外の海

	<p>私のプレゼンテーションの中で、日本の宗教について触れるところがありました。私は日本人が宗教を信仰していない、それを文化として見ている、と説明すると生徒たちはとても不思議な顔をしていました。中には怒り出しそうな生徒もいました。日本人の無信仰さにはかつて私も驚いていたので気持ちはよくわかるのですが、神を信じないだけでお互いをさげすんだりするのは違うような気がすると思いました。しかし、私の日本の宗教に対しての認識も詳しいものではないと思うので、改めて慎重に話さなければいけないと感じました。</p> <p>帰宅途中マンダに、この宗教について問うと、「幾人かのムスリムにとって宗教を信じていないのが変に思うこともあるけれど、幾人かの人には別に気にしないってこともあって、人によると思う。」というようなことを言っていました。私も宗教を信じていた頃があるため、どちらの意見も理解はできますが、単に宗教だけによって傷つけあったり、嫌ったりするのは人間としてもったいないことだと思うし、お互いを理解しあう努力がいるのかなと感じています。しかしこの問題は本当に慎重に考えていかなければならず、おそらくこの先ずっと考え続けるのだろうと思います。</p>
<p>9/10 (木)</p>	<p>今日は私のインターンシップ最終日です。私はインターンシップについてのプレゼンテーションを行いました。結論は下記です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NGO 運営の困難さ 2. 英語の大切さ 3. ウェブマーケティングの重要さ <p>しかし、当初自分が予定していたものと違い、リスナーが生徒であったためにしばしばやりづらいところがありました。しかし結果的にアリさんが耳を傾けてくれて、いろいろとフォローを行ってくれました。</p> <p>インターンシップ中私の英語力はあまり良いとはいえず、しばしば聞き取れないところや話せないところもありました。もっと英語ができれば、アリさんやアユさんをより手伝えることはできたかもしれません。日本に帰っても英語の勉強をし続け、またアリさんたちとコンタクトを取り続けてより力になる活動がしたいと心の底から感じました。</p> <div data-bbox="1002 770 1417 1070" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">Stichting Jogja の子どもたち</p>
<p>9/11 (金)</p>	<p>今日はガジャ・マダ大学でのごみについてのワークショップがあります。</p> <p>午前中、原田さんのホストファミリーの家に行きワークショップに向けての準備を行いました。かるく準備を行った後にワークショップに行きました。</p> <p>ワークショップのなかでは同じ日本のメンバーたちの成長を感じることができる素晴らしい発表があったり、日本人の後藤さんのお話に感動したりと、印象深いことがたくさんありましたが、特に印象が残ったのは、ガジャマダ大学の学生たちとのディスカッションです。</p> <p>同じグループのメンバーの学生たちの案はとても抽象的で、私はこの計画が実行することができるのか疑問でした。私のそうした態度が現地の学生たちにとっては私が、彼らが言うことが理解できていないのではないかという風に移り、さらに議論が長引いてしまうという結果になりました。</p> <p>私は、現実にごみ問題を減らすには、生徒たちが身近にできるプランを練り、それを実際に行動に落とすことが大切だと思っています。しかし彼らは、「これはあくまでも計画だから、ほかの人がやってくれるだろう」という考えでディスカッションをしていたため、私はそこに疑問点を感じたのでした。</p> <p>その後デデさんから「インドネシアのごみ問題は始まったばかりなので、学生たちが問題認</p>

識をもってくれただけでこのワークショップの意味がある」という考えをいただいたとき、私の考えが段階をとらえ間違えていたのかな、と感じました。

私が発言した内容が英語でお互いに理解しあっているのかが不安で、さらに英語を学び続けていきたい、自分の考えを英語で外国人に伝えたい、という思いが強くなりました。



ワークショップにて。ディスカッション中

夕食に向かう途中、LOであるマンダと先ほどのディスカッションについて考えを共有しました。マンダは、ディスカッションの中で、限られた数人の学生がほとんどの意見を言い、それ以外の学生がほとんど議論していなかったため、あまりよいディスカッションではなかったよねと言っていました。私もそう感じました。どの人も正しい意見を持ってい

るので、それをとにかく聞く姿勢を示すことは大切なことなのではないかと思います。しかし、そうしたことは日本語で議論を行う時でさえ難しい事だと思います。これを実現するためには、みんながお互いの意見を聞く、発言がしやすい環境をつくるための何らかの努力が必要なのだと考えます。

夕食では、日本人やインドネシア人関係なく、みんなが笑い、みんなが楽しんで路上に座って一緒にご飯を食べました。とてもステキで、とても幸せな光景でした。インドネシアで日数が経つということは、それだけ日本に帰る日が近づいているということで、本当に悲しくなります。日本が嫌いなわけではなく、この仲間たちと離れることが本当に切ないです。

9/12

(土)

今日はフェアレルパーティがある日でした。

午前中は原田さんとデデさんとでデデさんのホストマザーとともに市場に出かけました。そのあと、マリオボーロに赴きました。マリオボーロでは、とてもきれいなパティックがたくさん売られていました。パティックの種類は本当にピンからキリまで、という感じで、高いもの（1万円くらい）は、やはり高だけの質や高級感が漂っていました。私は学生なので比較的



フェアレルパーティにて。みんなでGMBのテーマソングを合唱。

安いパティックのようなワンピース（200円くらい）を数点購入しました。

その後フェアウェルパーティがありました。フェアウェルパーティでは私はとても幸せでした。というのも、インドネシアの仲間たちが私を励ましてくれたからです。「ひかり、きみはもうたくさんの友達をインドネシアにいるよ！悲しまないで！」この言葉を私は東京に帰った後もきっと覚え続け、心の支えにし続けると思います。

また、フェアウェルパーティには Stichting Jogja のスタッフの方々もお越しいただき、本当に幸せでした。私は時々英語が聞き取れず、Stichting Jogja の方々の力になったか不安でしたが、Stichting Jogja の方々は、私から学んだことがたくさんある、とおっしゃってくださり、泣きそうな思いでした。Stichting Jogja には、近い将来必ず恩返しを行いたいと心の底から思います。

私は東京で一人暮らしをしています。インドネシアの方々のような、温かい家族のような思いを、東京では感じるできません。しかし、私が東京で暮らしているからこそ、インド

	<p>ネシア人がどれだけ温かいか、また家族がそれだけ良いものかということを知ることができたのではないかと思います。</p> <p>私が東京にいるときも、インドネシアには友達やお世話になった方々が生きていて、京都にもともに頑張った友達がいて、そしてそれぞれがそれぞれの場所で努力をしていると思います。だから私も、東京で努力をしていきたいです。そして近い将来彼らとまた出会ったときに、「成長したね」ときちんと言われるように、また英語で議論ができるように、帰国した後も頑張ります。</p> <p>また、インドネシアのこの家族や友人間の温かさを経済成長した後も決してなくしてほしくないと感じます。そのためにもどうすればよいのか、それは今の私にはわからないけれど、まずは経済をしっかりと勉強してそのための手段を模索して行きます。</p>
<p>9/13 (日)</p>	<p>今日はとうとうインドネシアとのお別れの日。まずいつも通り朝ご飯を食べて、出発のための荷造りを行いました。ホストファミリーとも今日でお別れ。日本からのプレゼントがとても少なかったため、また日本から郵送したいです。家族とたくさんの写真を撮影しました。何年後ここに戻ってくることは定かではないけれど、近いうちに必ずまた戻りたいと心の底から思いました。一人暮らしをしてい</p> <div data-bbox="912 817 1401 1176" data-label="Image"> </div> <p>私にとって、インドネシアのホストファミリーは当の家族のようでした。とても名残惜しい。以前アメリカでホームステイをした際には、こんなに悲くなることなんてありませんでした。それは、自から積極的に話しておらず、「Thank you」と「Sorry」しか発言しなかったからです。しかし今は、自分なりに英語で話すことに努力をし、インドネシア語をしゃべりホストマザーやホストファザーと話そうとしました。最終的に話せるようになった言葉は少ななかったけれど、ここまで心を通わせることができたことに本当に感謝したいです。</p> <p>空港では、インドネシア人の学生たちとお別れ。端的に、本当にさみしい。みんなが笑顔で送り出そうとしてくれるのが感じました。お互い流暢に英語が話せるわけではなかったけれど、一人ひとりの個性がきちんとわかり、きちんとコミュニケーションができ、離れていても連絡を取り続けたい、そんな友達が外国でできるなんて渡航前には思ってもみませんでした。つらいときや緊張しているときに励まし続けてくれていた仲間たちに感謝しかありません。また、喜びや幸せを分かち合った仲間たちに、最後に何と伝えればよいのかわかりませんでした。</p> <p>私がフェアウェルパーティで語った、東京で孤独を感じるがあった、という言葉は、インドネシア人にとってはどう映ったのか気になりました。なぜかという、彼らはとてもそのことを気にしていて、「一人じゃないよ」とか「がんばって!」とか励ましてくれたからです。私にとって、東京で孤独感を感じて生きることは日常茶飯事だったし、このことを東京の友達に言っても「それは当たり前」ととらえられることが多かったですが、インドネシアの方々には本当に心の底から励ましてくれました。そして「ひかり、あなたはもうインドネシアに大きな家族があるのだから、悲しまないで、一人じゃない。」と最後の最後まで言い続けてくれました。</p> <p>私は東京に帰って、自分のなすべきことをやろうと考えています。なすべきこととは、まずは私の大学の専攻である経済の勉強です。私は勉強不足で、経済が社会に及ぼす影響を深く勉強することのないままここまで来てしまいました。また、英語の勉強をしっかりと行って、その</p>

経済の知識を英語で語るができるようになりたいと思います。インドネシアの大学生を見ると、社会に対する興味がすごくあり、経済や政治のことなどを積極的に議論しています。私は彼らを見てみると、まるで司馬遼太郎著『坂の上の雲』にでてくる明治期の日本のような、そんな熱い精神性を感じました。自分の勉強がこの国を背負っている、そんな気概です。しかし、いまの日本の大学生の大多数はそんな気概を持って勉強していないはずです。ただ単位が修得できればいい、大学は人生の夏休みなのだから、とにかく遊んでおけばよい。私は心なしか、自分を含めた日本の大学生を恥じています。ですので、まずは、自分は行動で示してゆこうと考えます。自分から、しっかり勉強してゆきたいです。東京に来て、遊んでいる大学生を見て揺らいでしまっていた情熱に再び火をつけてくれた、そんな気持ちがしています。

また、私が努力できていたのは、周りのすべての人の手厚いサポートがあったからなんだと感じました。受験期やインドネシア時代にあそこまで努力しよう、と前向きに感じる事ができたのは、誰かの犠牲があったからだと感じます。母がご飯を毎食作ってくれたり、掃除をしてくれたり、洗濯をしてくれたり、励ましてくれたり…。当たり前のことではない、本当に大切に育てていただいたことへの感謝が芽生えたと同時に、東京で一人でやっていくことの必要性を感じました。

また、大学生のうちにもう一度インドネシアに必ず行きたいと思います。私のインドネシアの仲間たちに会って、その時にみんながいたから、成長できましたと胸を張って言えることができるように努力を続けてゆきたいです。




2. 藤原未来（京都産業大学外国語学部3年）

日時	研修内容
8/28 (金)	<p>夕方4時にジャカルタに到着し、GMBのDedeさんとDestaniaさんが空港まで迎えに来てくれました。空港からホテルまでタクシーで移動しましたが、幸いにもジャカルタ名物の渋滞に巻き込まれることなくホテルに到着しました。</p> <p>移動中、ジャカルタの高層ビルの多さに驚きました。去年一年間バリ島にいましたが、とても同じ国とは思えません。しかしながら、高層ビルの前には、今にも崩れそうな建物や、物売りや物乞いの方もいて、インドネシアの経済発展と共に広がる貧富の差を直で感じました。</p> 
8/29 (土)	<p>今日はオリエンテーションとインドネシアのGMBメンバーが行っているプロジェクトについてのプレゼンテーションがありました。恵まれない子ども達に靴をプレゼントするプロジェクト、感染予防のため爪切りは一人一つ持ってもらうプロジェクト等、どのプロジェクトもみなさん積極的に活動されていて、関心するばかりでした。彼らと自分を比べると、とても恥ずかしくなりましたが、これから自分も彼らと並べるぐらい頑張ろうと思いました。午後からは難聴の方に教育機会を与えている機関にお邪魔し、手話を教えてもらったり、ハンカチ落としをしたりして一緒に楽しみました。手話も言語と同じで、国によって異なるということを知りました。私たちの方がお礼を言うべき立場でありながら、「ありがとう」と日本とインドネシアの両方の手話でお礼を言っていました。本当に素晴らしい方ばかりでした。</p> 
8/30 (日)	<p>今日は、GMBのメンバーも参加している、年に一回開催されるストリートチルドレンに教育機会を与えるキャンプイベント、Sahabat Anakの見学に行きました。布団はなくても屋根の下で安心して眠ることができ、シャワーを浴びることができ、無料で医療サービスが受けることができ、安心してご飯を食べることができ、たくさんの友だちと遊べることができ、子ども達にとって最高の日です。東京と同じような大都会ジャカルタで、こんな当たり前のようない日を楽しみに待っている子ども達がこんなにもたくさんいるのかと思うと、なんとも言えない気持ちになりました。</p> 

8/31 (月)	<p>今日はジャカルタ最終日です。朝 9 時頃に電車でジャカルタを出発し、夕方 4 時半頃にジョグジャカルタに到着しました。約 7 時間半かかりましたが、あっという間に感じました。駅まで各ホストファミリーと L.O が迎えに来てくれました。私のホストファミリーは駅に来れないとのことだったので、L.O の Ozil が家まで送ってくれました。Ozil はとても明るく陽気な性格で、初対面ということをおぼろげに忘れるほど色んな話をしました。彼は、ジャカルタのプレゼンテーションで紹介された恵まれない子ども達に靴をプレゼントするプロジェクト(GMB Alaska)の設立者でした。ホストファミリーも温かく迎え入れてくれ、無事に私のジョグジャカルタでの生活がスタートしました。</p>	
9/1 (火)	<p>今日は、私たち研修生が明後日から研修を受ける NGO 先へ挨拶に回りに行きました。Habitat for Humanity, Sayap Ibu, Stichting Jogja です。小森さんが研修予定の Sayap Ibu は、障がいのある子ども達の孤児院です。そこにはたくさんの子どものアート作品があり、どの作品もとても素敵でした。その中でも、お菓子の空き箱を細かく切って色分けした作品が個人的に素敵だと思いました。私自身絵が好きなので、子ども達のデザインをうまく利用して何か新しいプロダクトを生み出せたらなと思いました。</p>	
9/2 (水)	<p>今日も昨日に引き続き、研修先の NGO へ挨拶回りに行きました。今日は、人権問題に関わる LBH, PUSHam Ull, そして私の研修予定である Project Child でした。Project Child は貧困層の子ども達の放課後活動を支援している団体です。私以外にも多くの外国人ボランティアが来ていましたが、ほとんどが西洋諸国からのボランティアで、日本人は私でまだ二人目だそうです。ジョグジャカルタにいるストリートチルドレンの多くは Kricak Kidul 出身だそうです。Project Child はその Kricak Kidul で放課後活動の支援をしています。子ども達の親の多くは日中道端で新聞を売ったり、ゴミを拾い集めたりして収入を得ているそうです。一日の収入は約 15,000 ルピア、日本円で約 150 円ほどです。ほとんどの家がワンルームで、トイレ・シャワーはありません。その代わりに、公衆トイレ兼シャワールームのようなものがあり、それをみんなで共用しているそうです。</p>	

<p>9/3 (木)</p>	<p>今日からインターンシップが始まりました。今日はポストカードを作る授業でした。来月、バザーがあるとのことなので、子ども達が作ったポストカードがバザーで売れるように、私は二つのことを子ども達に伝えました。一つ目は、丁寧に作ることです。当たり前前の事かもしれませんが、飽きてくると雑になってしまうことが多いからです。たとえ絵が上手でなくても、丁寧に仕上げれば立派な作品になります。二つめは、顧客のニーズを考えることです。たとえばそのバザーに来る人の多くが観光客であるなら、ジョグジャカルタらしいデザインのポストカードがよく売れるはずですが、ポロブドゥールやプランバナン、トゥグゥを描いてみたり、インドネシアをアピールするデザインのポストカードは売れるはずですが、もしバザーに来る人の多くが地元の人ならば、誕生日に送れるようなデザインや、日頃の感謝の気持ちを伝えられるようなデザイン等、考えるとたくさんあると思います。どんな人が買ってくれるのかを考えてからデザインを決めることの重要性を伝えました。これらは私がジョグジャカルタに来る前の資金調達で学んだことです。中には、絵を描くことがあまり好きではない子もいて、最初は「私にはできない」と言っていたのですが、最後には素敵なポストカードを作ってくれました。ですが、使い終わったペンをほとんどの子が元の場所に戻さず、キャップもしないままそのまま放置している状態だったので、そこは指導すべき点だと思いました。</p>
<p>9/4 (金)</p>	<p>今日は日本語のクラスでした。ほとんどの子ども達が初めて日本語を勉強することなので、簡単な自己紹介だけ覚えてもらうことにしました。しかし、インドネシア人の名前の中には日本人にとって発音しづらいものが多いので、日本人のために少し名前を変更する必要がありました。例えば、Naswal という子がいましたが、彼の名前は Nasuwaru に変わる必要がありました。N 以外の文字の後ろには必ず母音が必要ということ、L の発音は日本語には存在しないことを、Amelia さんから子ども達に説明してもらいました。子ども達には発音しづかったと思いますが、一生懸命日本語を覚えようとする子ども達をみて嬉しくなりました。</p>
<p>9/5 (土)</p>	<p>今日は一日観光でした。GMB のメンバーと一緒にポロブドゥール遺跡とプランバナン寺院へ行き、夜はラマヤナバレーを観ました。幸運にも、プランバナン寺院から夕陽が見れました。現地の GMB のメンバーは英語で遺跡やお寺について説明してくれ、若干間違った情報もありましたが、それも含めて最高の思い出になりました。私もこれぐらい英語で話せるようにならないといけないと思いました。移動中のミニバスの中でも笑ってばかりで、本当に楽しい一日でした。</p>



9/6 (日)	<p>今日はコーディネーターの原田さんとデデさんがホームステイしているお宅にみんなで邪魔し、お好み焼きを作りました。原田さんのホストマザーは、お好み焼きだけでは足りないだろうということで、インドネシア料理を作ってくれ、皆で一緒に頂きました。私たちが言い出したことなのに、準備、片付け、すべてを手伝ってくれるインドネシアのご家族のみなさんに本当に感謝、感激でした。浴衣等、食べ物以外の日本の文化も楽しんでもらえて、良かったです。夜は Project Child のボランティアスタッフさん達と一緒に食事をしました。大半の方が初対面だったのですが、第一印象はお洒落や化粧、買い物が好きそうな今時の若者という感じでした。しかし、みなさん学校や仕事で忙しい時間の中で、毎週二回子ども達のために勉強を教えに行っています。人は見かけではないことはわかっていますが、今日改めてそれを感じました。</p>	 
9/7 (月)	<p>今日は折り紙の授業です。作ったら終わりではなく、作り終えた後も遊べるようなものがいいと考えた結果、手裏剣と指輪の折り方を教えることにしましたが、少し難易度が高かったのか、私が見本を見せながら一緒に折らないと、作れない子どもたちが大半でした。それでも子ども達は一生懸命私についてきてくれ、なんとか一人ひとつ作ることができました。特に指輪は大好評でした。夜は、GMB のメンバーと、たまたま同じ時期にジョグジャカルタに来ていた私の大学のゼミの先生と一緒に晩御飯をいただきました。先生から GMB について教えていただき、渡航前も私のファンディングに協力していただいたりと、お世話になりっぱなしの先生と、現地でも会えるなんて本当に嬉しかったです。</p>	
9/8 (火)	<p>今日は朝からカフェに行ってアメリカさんと Project Child のホームページの翻訳をし、今後の Project Child について話し合いました。Project Child のボランティアのほとんどは欧米圏の方で、これからは日本人にも参加してほしいとのことでした。ですが、Project Child には日本人ボランティアが一人しかいないため、私がおの方と協力して日本で Project Child の宣伝をしていくことになりました。詳しいことはこれからまた話し合う予定です。その後三時頃に Kricak Kidul へ移動して、映画を観る準備を始めました。予定では、今日の授業はアニメのクラスで、他のボランティアスタッフと協力して子ども達に漫画を描いてもらうという内容でしたが、おそらく子ども達には難しいだろうとのことなのでアメリカさんの判断で映画鑑賞会に変更されました。プロジェクターを持ってくるボランティアの方が 20 分ほど遅れてきたので、予定の三時半には始められず、さらにその場所では結局コンセントを繋げることができなかつたため、四時になって場所を変更することになりました。Kricak Kidul の町内会のようなところに移動し、まずは掃除から始まり、絨毯を敷き、その後ようやくプロジェクターとパソコンを繋ぎ、予定より 45 分遅れて映画鑑賞が始まりました。ここにきて初めて時間通りに物事が進まないインドネシアあるあるに遭遇しました。</p>	




9/9 (水)	<p>今日は朝からアメリアさんともう一人のボランティアの方と明日の寿司クラスの買い出しに行きました。そのあとカフェに行って、なぜアメリアさんが Project Child でボランティアしているのかという理由を聞きました。彼女は大学院に行くための奨学金を得るために、様々な活動をしているそうです。この Project Child はその活動の一つだそうです。午後から Kricak Kidul に移動しました。今日は、英語の授業でした。最初に子ども達にプリントを配り、その後、4, 5 人のグループに分かれ、各グループにボランティアが付きまします。そして子ども達が分からないところをボランティアが教えるというやり方です。全く英語がわからない子ども達に英語を教えるのはとても難しく、また、途中で飽きてしまい授業を抜ける子どもが多かったので、もう少し工夫する必要があると感じました。</p>
9/10 (木)	<p>今日はインターン最終日でした。朝から他のボランティアスタッフと Project Child の事務所に集まり、午後の手巻き寿司クラスのための準備を始めました。みなさん学校や他の活動で忙しい中、私のクラスの準備の手伝いのためにわざわざ集まってくださり、本当に有難かったです。具材はシーチキン、卵、小海老、胡瓜、アボカド、レタス、ウインナー等、子どもが好きそうなものにしました。シーチキンは売ってないので、マグロをゆでてほぐした後、マヨネーズと塩コショウで味付けしました。子どもたちは最初シーチキンを見たとき変な顔をしましたが、食べてみると美味しかったようであったという間になりました。</p> 
9/11 (金)	<p>今日はガジャマダ大学でインドネシアのゴミについてのワークショップを開催しました。</p> <p>ジャパンファンデーションの後藤さんもわざわざジャカルタから来てくださり、貴重なお話を聞くことができました。ワークショップでは、インドネシアのゴミ問題で、身近なところからはじめられる継続可能な新しいゴミビジネスについて、チームに分かれて考えました。私たちのチームは話し合いがインドネシア語で行われました。私は一年間バリ島で語学留学していたにもかかわらず、話し合いの6割程度しか理解できなかったため、自分の語彙不足を痛感しました。私のグループ内では、次々に意見が飛び交い、参加者みなさんの積極的な姿勢に感動しました。最後に一番良かったチームに景品として私のデザインしたノートをプレゼントしましたが、とても喜んでくれたので嬉しかったです。</p> 


9/12 (土)	<p>今日は朝からホストファミリーと一緒に土産を買いに行き、そのあとホストファミリーの親戚の家に何軒かお邪魔しました。お邪魔するたびに親戚のみなさんは紅茶やお菓子を用意してくれ、見ず知らずの私にまたいつでもおいでと言ってくださり、インドネシアの方々の温かさを改めて実感しました。夜はお別れ会でした。ホストファミリー、NGO のスタッフの方々、GMB のメンバーの前でのスピーチは、少し緊張して、言おうと思っていたことが少しとんでしまいました。たくさんの方からの素晴らしいメッセージを受け取り、いつまでも忘れずに、帰国後も頑張りたいと思いました。最後に、毎晩みんなと練習したソーラン節と GMB の歌を披露し、お別れ会は終わりました。ホストファミリーはソーラン節を気に入ってくれたみたいで、帰りのタクシーの中ではホストファミリーと一緒に歌いながらの楽しい帰り道になりました。</p>
9/13 (日)	<p>最終日です。朝からホストマザーにナシゴレンの作り方を教わり、一緒に作りました。午後になり駅まで送ってもらい、ホストファミリーと最後のお別れでした。その後 GMB メンバーも駅まで見送りに来てくれました。このプログラムに参加することができて、本当に良かったです。ずっとつきっきりでご指導して下さった原田さん、Dede さん、そしてジャカルタ、ジョグジャカルタでたくさんの刺激を与えてくれた最高の GMB 全てのメンバー、GMB を紹介して下さった安田先生には感謝でいっぱいです。たくさんの方の支えがあったからこそ、こんなにも充実した二週間になったのだと思います。今までの人生で一番刺激的で勉強になった二週間でした。これは終わりではなく、スタートです。これからも Project Child に協力し、GMB のメンバーとして頑張っていきたいです。</p>



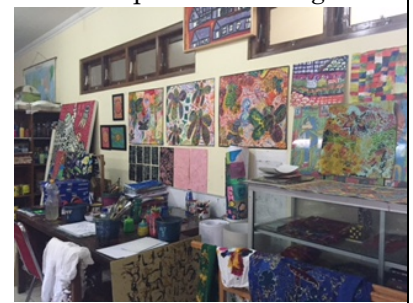
3. 小森茉耶 (滋賀大学経済学部 1年)

日時	研修内容
8/28 (金)	<p>I finally arrived in Indonesia through totally 8hours flights, Itami Airport to Soekamo-Hatta Airport. The weather was fine and as hot as Japan but I think it's comfortable to live because the air was dry, different from Japan's one which is humid. One of the GMB member, Destania was waiting for us at the gate and welcome us with a big smile.</p> <p>While we were heading to our hotel, I observed the buildings, streets, people and so on. Most of car was made in Japan because of the reasonable price and motor bicycles were also same as cars. There were a lot of holes in the street and also street restaurants were there at night. Sometimes street musicians come to there and singing songs with guitar and then they get some money from customers.</p> <p>First time for using toilets in Indonesia was at the airport. Toilets have paper but we can't flow into the toilet because in Indonesia, swage system is so weak-not like Japan's one. We have to throw away the paper into the garbage next to the toilet. Toilet in hotel or department store usually has horse for using as wash ret, so usually the floor around the toilet is wet and easy to slip. 100 rupiah equal 1 yen. So it easy to account the price, we only have to delete two zero to know how much is it in Japanese yen.</p> 
8/29 (土)	<p>We got four presentations of GMBer about their own projects. One is the project for the children in juveniles. This project's aim is giving education and skills for work so that they can live their own life better after they go outside of there. At the juvenilia, there are only teenage boys, some of them killed their mother or friends. They tend to return to the juvenilia after they back to the society because of no skills of jobs and no education. Also they don't have any hope for their future. In this project, stuffs visit there and play with them and give them opportunity to get education. They also tell them the importance of having dream. Their project gives encourage and hope to these children. Other projects were also interesting and I was stimulated them. I'd like to start my project after I came back to Japan.</p> <p>After the greeting party, we went to the Asian Festival by train which is an old Japanese train-touzai line. At the station's home, there was no sign to indicate the place of door we make a line to take on the train. Having dinner with GMB members were so fun and some of them showed us traditional play. We spent a great time.</p> 
8/30 (日)	<p>In the morning we went for a walk, because on Sunday morning many citizen live in Jakarta walk the main street and get together to the park. There are many stand such as food, balloons, clothes and pets. The street was full of lively atmosphere and it was</p>

	<p>so fun to observe them.</p> <p>We left our hotel and headed to Jambore which is a big event for street children in Indonesia. It's two days event and gives them education, space to play, provides healthcare and so on. This year's concept was "respect your parents" and activities which related respecting parents had done there. We had a discussion with the head of this event and talked about situation in Indonesia and about this event. They had clear visions and goals so I was inspired by them. After that we went to a department store and slam area. In the department, people dressed up so well and some goods were so expensive. I felt like as if I were in Japan. On the other hand, at the slam area, there were some house under the river and they were dirty, dark and smelled bad. I was shocked the difference between two places. At night we went to Monas and karaoke together.</p>	
8/31 (月)	<p>Today was the day that we came to Yogyakarta from Jakarta. We left the hotel at 8 a.m. and took a train at Station at 8:40. Desta and Soni, both of them are GMB member, came to the station and said us goodbye. I expected the train which we took like shinkansen in Japan, but it was like express and it didn't as fast as I thought. But the seat was comfortable and food was also great. It took about 7 hours so I wrote what happened in last 3 days. The view from the window of train was great and it sometimes seemed like rural area in Japan.</p>	 <p>At 4:30 we arrived at Jogjakarta Station and we met GMB members in Jogjakarta for the first time. I was excited to start new life and have great experience I've ever had at this city. Also my host family was waiting at the station. My host mother and second daughter was there and I greeted them nervously. My host mother, Ibu Ika seemed so kind and second daughter, Fesa was so shy. Both of them, especially Fesa can speak Japanese well so it made me relax to talk with them in Japanese. Of course I had to improve my English speaking skills so I asked them to talk in English later. We went to a restaurant for dinner. While we were having dinner, one of a student of my host mother joined us and spent time together. She is a professor of UGM and very famous women in Indonesia and sometimes invites her students to dinner or house to discuss and do research. I was shocked when I saw the bathroom because there were no place to change clothes and I had to clean toilet with water.</p>
9/1 (火)	<p>Today, we visited some NGOs accepted us as internees and greeted them. At first we visited Habitat for Humanity which Mr.Yadorihara will work at as internee. Then we visited Sayap Ibu which the facility for handicapped children. They accepted me as internee and I'll work there from day after tomorrow. When we arrived there by a micro bus, a boy came to us and greeted. Many children came to us and introduced themselves and tried to communicate with us.</p>	

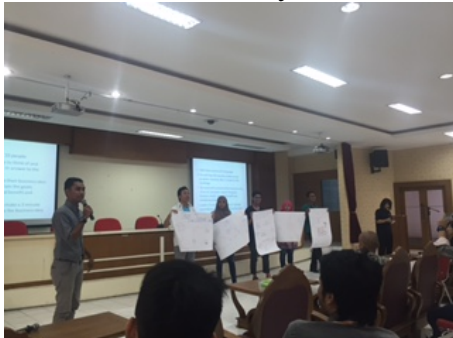

	<p>Some of them couldn't hear and speak so it was not easy to communicate with them but we tried to understand what they wanted to tell us by using gesture and drawing pictures. Mr.Setyo said that you didn't need language when you communicate with children so just be with them and think what they want to do and what should I do for them. I think I can learn a lot of thing from here so I'll do my best for them.</p>
9/2 (水)	<p>We visited a few NGO for orientation. I was shocked when I heard some the stories at LBH. These storied were about the people who was killed or exiled by government. It made me so sad and I got angry about these cases.</p>
9/3 (木)	<p>Today was the first day of my internship at Sayap Ibu. When I arrived there, some students came to me soon and asked me playing with them. Then I walked around and observed each room. Today, students were having examinations so there was no class in the morning. Some of them were putting some piece of papers which were cutting into the shape of number on a notebook in order, some of them were drawing figures. At the outside, mechanical teacher was teaching how to fix motor bicycles to children. According to the teacher's story, they can be a professional for fixing motorcycles, it means they can fix them by their own skills. They will get the skills to work however, they can't get a job because of the only reason that they have disability. This kind of problem sometimes happens also in Japan.</p>  <p>While children were having some snacks, I attended a meeting with staffs and told them what I wanted to do in there. I asked them to have my class for producing something we can sell at the market in Japan and also suggest having website for selling goods. They were interested in my offer because what they wanted me to do might links to what I wanted to do.</p> <p>After having lunch, I met a man who was good at playing keyboard and he took me to the music room and played for me. He and some staffs played and sang together and I also sang "Kokoro no Tomo". Before I leave there, I met Mr.setyo and talked about my project then he accepted what I wanted to do. I started make Facebook page for selling goods and fundraising for Sayap Ibu. I think I can contribute for them by finding market in Japan and to advertise about Sayap Ibu to Japanese people.</p>

9/4 (金)	<p>Today, I went to Sayap Ibu at 7:15, because our activities began at 7:30. We went a park near there and played some game. The student volunteers planed those games and enjoyed with them. But to be honest, I hardly supported them because I couldn't understand what they were doing and also what they were talking about. So while those activities, I was taking care of other child who can't move their body well. And also there were two teacher today, one is a therapist and another is art teacher. So I talked about what I wanted to do here and explained about Facebook page for selling good in Japan to the art teacher. He was interested in it and we talked about some details. After these activities, we came back to Sayap Ibu and I repaired for my class which will start from Monday and I was going to put more details on the Facebook page, but Sayap Ibu was closed at 11:30 because it's Friday and they go to pray. So I returned to my house.</p> <p>After I came back at my house, I prepared and made a sample but I think I need to arrange.</p>
9/5 (土)	<p>I went to Borobudur, GMB Podo Nara and Prambanan. Also we watched Ramayana Ballet at night.</p> <p>At Borobudur, it was much hotter than place around my house. There were many sellers in there and everyone asked me to buy some souvenir and something to drink and I felt very sorry for refusing them every times. Other GMB members told me about history about Borobudur but each of their story were different and it made me confused. But I was interested in every story and also I think I had to learn about history of Indonesia.</p> <p>After lunch, we visited Podo Nara which junior high school students learn various kind of things, such as English, having dream and so on. And also they share some books. At the time for introduce themselves, all they had their own dream for future and I was so impressed that these were specific dream. Their faces were shining and filled with hope. Also I was impressed this GMB projects and GMB member such as Didim and Zuma because they must be roll models of students and they also give these students opportunity to study and they support them in order to their dreams will come true in the future.</p> <p>At night I watched a play which is called Ramayana ballet. The costumes, music and dancing were all beautiful and powerful. The story was quite long but I enjoyed so much. The power of music and dancing was amazing because I can image the story and there's no obstacles of difference of language I think.</p>



9/6 (日)	<p>Today, I went to the okonomiyaki party which was held by Hikari at harada-san's host family's house. There were around 30 people in there and we cooked okonomiyaki together. I think it was a good idea that she chosen cooking Okonomiyaki, because it's easy to cook. We ate Okonomiyaki and traditional Indonesian food together at lunch. Through having foods, we could understand about each other's culture I think.</p> <p>After lunch we had a very special experience which was playing traditional Indonesia instruments. It remind me that when I was in a music room in the elementary school.</p> <p>At night, my LO-Zuma took me to the shopping mall and I bought some goods to use at tomorrow's my classes at Sayap Ibu.</p> <p>I thought I could spend time with my whole host family, but actually father went to the celebration for new born baby at the neighborhood's house and second daughter had already gone back her school. I wish I can spend time with them until I leave Indonesia.</p> <p>For tomorrow's class, I prepared a presentation and materials. I hope they can enjoy to make this and hopefully we can make good works.</p>
9/7 (月)	 <p>Today, I was going to have my own class that he art teacher and unfortunately I didn't have class today and I supported his class. In his art class, some children were drawing figures and some of them were making batik. Instead of having my own class, I taught him how to make these goods and we promised to have a class together tomorrow. While I was waiting for Zuma came and picked me up, I was preparing Facebook page to introduce Sayap Ibu to Japanese people. And I also recorded some videos for updating the Facebook pages.</p> <p>We went to the restaurant at dinner and while we were waiting for other members, we enjoyed Origami together. I had a bunch of chiyogami so we could make any works. Mr. Dede is very good at making origami works.</p> <p>Also I talked with Hikari about this internship and Indonesia. I had special experience in here thanks to everyone who supports us, especially GMB members in here. They always take care of us, worry about our condition and spare their time for support us even they are busy and tired. I appreciate their kindnesses and supports and I think we have to give them back to someone who will come to Japan next year.</p>

<p>9/8 (火)</p>	<p>Today, I had my class and taught children how to produce goods for selling. The art teacher assisted me because to tell the details of making goods, Bahasa Indonesia is necessary. I taught them paper beads which is easy to make and also the materials which are easy to get in Indonesia. They seemed enjoying to make them and finally we made 6 works. But a student took them all so I'll ask him to give them back to me tomorrow. These goods don't seem making from paper and I think it can be sold in Japan.</p> 
<p>9/9 (水)</p>	<p>I arrived at Sayap Ibu at 7:45, and I went to a temple near there to play and refresh with children. After that I participated the art class and supported them. While art class I talked with the teacher about the class I had yesterday and discussed about it. He said some of them couldn't follow me so we need other activities, but I don't have enough time to plan and prepare for it. He said that I hope you could stay here about 6 months. I also think 3 weeks is short time to change or create something but I'd like to get as much information as I can and arrange the schedule to support them after I leave here. After lunch, I prepared the Facebook page and presentation.</p>  <p>Zuma picked me up at 4 and we went to a free English club he joined together. He said he wanted to introduce me to the members of club and they wanted to discuss about Japan with me. I joined the discussion class with other 4 students including Zuma. After introduce ourselves each other we enjoyed ice breaking and we were separated in two groups and then the discussion started. The topic was love and our opinions were divided between male and female. It was so interesting to me. After that, Zuma and I went to an ache restaurant, rainbow park and star hill. There were a lot of lantern in the rainbow park and it was so romantic. We saw many lights from star hill and I can't express how it was beautiful. I'm appreciate that Zuma took me everywhere I wanted to go. I enjoyed Jogjakarta so much.</p> 
<p>9/10 (木)</p>	<p>In the morning, I spend time with children and supported their activities. After lunch, I prepared Facebook page at the office of Sayap Ibu. I think it is difficult to tell about Sayap Ibu to Jaapanese people. After I came back to Japan, I think I need more arrangement of it.</p>

9/11 (金)	<p>I went to Sayap Ibu at 8 o'clock with Japanese souvenirs because today was the last day I interned at this facilities. When I arrived there, I listed the sounds of some instruments and voices. Other internees from local university also left there today so they were having farewell ceremony. Some of the children dressed up and wore traditional Indonesian costume for traditional dancing. I think it's the same play as Ramayana ballet I watched before. They sang songs together and all of the staffs, children and students looked so enjoying last time they could spend together. Zuma came there to pick me up at 11:00 so I said goodbye to everyone, gave the souvenirs and I left there. They were already griping my heart so I was so sad that I couldn't meet them but I've made up my mind to come back here someday so I didn't cry.</p>  <p>We headed to UGM to hold the symposium about garbage problem. After listening a speech of guest speaker, we were divided 5 groups and began to think a business plan to solve garbage problems in universities. The group I joined in suggested a business plan for paper recycle. I couldn't join the discussion because they talked in Bahasa Indonesia, but I noticed that some students claimed their ideas and the others didn't join it. I regretted that I should ask their ideas because they could have their own opinions.</p> <p>At the street restaurant we went to have dinner, I ate snails. We had empty talk and we enjoyed the last night we could spend time with only friends.</p>
9/12 (土)	<p>I had a last free time to spend it with my host family. In the morning, Ibu Ika took me to the museum. There were a lot of displays explain about kingdom of Jogjakarta. Before lunch, we went to a dormitory which the second daughter, Fesa lives on weekday. On the way to there I heard that my host mother couldn't come to the farewell party because of preparing for a village meeting which was held at our house. I was looking forward to take part in the farewell party so I was so disappointed. We had lunch at a restaurant and it was so delicious. After that we went to shopping and I bought some souvenirs for my family and friends.</p>  <p>At night, the farewell party was finally held. We prepared some postcards and gifts which we were going to give them to people who supported us in Jogjakarta. While I was writing messages to them, I recollected many memories I made with them and it made me cry. At the time we talked about this program, all of us cried because we already missed the days we spent here. The traditional dance, so-ran bushi, and singing GMB song went very well. After these performance, we gave some gifts to them. They seemed be pleased these goods so I was glad to see that. We had unforgettable memories at the farewell party.</p>

9/13 (日)

Today is the day we leave Indonesia. In the morning, I was still making a thousand origami cranes (sennbaduru) for Zuma. Of course I had not enough time to make one thousand cranes so I decided to make one hundred cranes. I made them as I wish his disease will be getting better even in a cold place Poland. After I finished making it, I enjoyed last conversation with my host family.

Finally, the time I should have left house came and I took a first photo with two daughter. I'm regretting that I didn't take any photos with my host parents. Instead of pictures I'll keep great memories with them in my mind. Host parents and second daughter, Fesa took me to the airport by a car. Ibu Ika took care of me even we arrived at the airport. I'm appreciate that I could host her house and spent time with her. She comes to Japan one to three times in a year so I wish I can meet her soon.

At the airport, other GMB member were already there and were reluctant to part each other. I gave Zuma the gift and a message card and he also gave us a nice present. I told him the meaning of the gift and took some pictures. The final best memory is singing the GMB song at there. Some of them were moved to tears and hikari was crying. To say goodbye to our best friends also the big family was so hard but I believe we can reunion someday and somewhere.



At the airport in Jakarta, we finally became a group which was constituted by only Japanese. We felt sad because it was quiet. In this 2 weeks, always someone was around us and talked to us and supported us so we used to be in the situation. As all of us were wishing we can come back to Indonesia someday, we left there

4. 宿利原拓也（同志社大学法学部3年）

日時	研修内容
8/28(金)	<p data-bbox="316 349 1410 573">約6時間半のフライトを経て、インドネシアの首都、ジャカルタに降り立った。関空や成田のように、スカルノハッタ国際空港も当然、都市部にあるわけではない。宿泊する「Grand Cembra Hotel」には車で約1時間半と聞かされていたが、渋滞に巻き込まれることもなく、当初予定していた時間よりも早く辿り着いた。</p> <p data-bbox="316 591 1410 860">東南アジア名物の渋滞に巻き込まれなかったものの、ホテルまでの道中は驚きの連続であった。少々車間が開いたかと思えば悠々と120キロ以上出す、一方で原付や中型バイクが大量に走行しており、今にも事故が起こりそうな状態であった。想像はしていたものの、インドネシアの交通事情は非常に無秩序である。</p> <p data-bbox="316 878 1410 1057">歩行者用の信号は基本的になく、大量の車やバイクが行きかう間を潜り抜けていくスタイルである。幸いにも、インドネシアのコーディネータのデデさんが同行してくれているため、私たちは難を逃れることができたが、日本人だけではおそらくインドネシアで道路横断することは不可能であろう。</p> <p data-bbox="316 1075 1410 1433">街中を観察していたところ、車道は非常に整備されており、車内が揺れるといった事態は起きなかった。反対に、歩道は整備が完全に舗装されない状況である。歩道では所々、大きな穴が見受けられる。車道の舗装やビル建設が進む一方で、車道など細かい部分で不備が見受けられる。ジャカルタ市内で下水普及を進めるとすれば、きれいに舗装されている車道を掘り起こすよりも、修理を必要とする歩道の下に通すべきであろう。車道の改善と同時並行で、下水道のパイプ通すことは決して難しいことではないと感じるが、どうしても優先順位が下位の事柄であるため、下水道の普及はまだ先のように感じられた。</p> <div data-bbox="999 479 1418 779" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="316 1442 699 1711" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="715 1451 1410 1818">視点をトイレに移してみる。空港やホテルのトイレはさすがに水洗トイレであった。外国人旅行者が多い場所はやはり下水道が完備され、清潔に保たれているのだろう。ここで驚いたのは、ホテルのトイレがTOTOであったことである。ご存知、日本では非常に名の知れ渡った大企業であるが、遠くインドネシアでも使用されていた。下水道のインフラが整備されるにつれて必要になってくるトイレ業界は、まだ衰退が見えないと改めて感じた。</p>

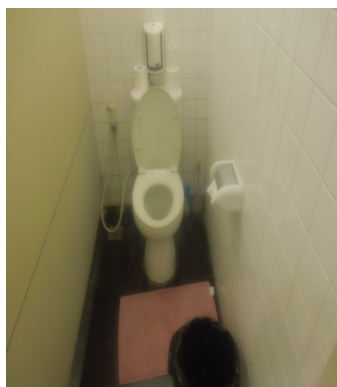
8/29 (土)

一年中夏のインドネシアであるが、特に夏の季節は暑さが厳しいようである。今日も歩くだけで汗が噴き出すような非常に熱く、乾燥した一日であった。

今日のハイライトは午前中、インドネシアの GMB メンバーがパーティーを開催してくれ、午後は身体的なハンディキャップを持つ子供や貧しくて幼稚園や保育園に通えない子供たちが休日に集まる場を提供する団体を訪問した。

歓迎パーティーではインドネシアの GMB メンバーのエネルギッシュな姿勢に圧倒されっぱなしであった。人数が多かったということもあるが、彼らに関心を抱く分野で様々なプロジェクトが進行していた。例えば、一つのプロジェクトの例としては、多様な民族や宗教が共存するインドネシアにおいて、幼少期からお互いを尊重するために各民族のキャラクターを作成し、絵本やカードゲームにして教育材料を提供しているものがあつた。

日本の大学生は自分のためにバイトをしてお金を稼ぐことに時間を割くが、インドネシアでは他人のために自分の時間を割く大学生が多いようである。よってインドネシアでは社会問題を解決するためにプロジェクトを立ち上げ、実際に行動に移すエリートが多い。裏を返せば、それだけ解決すべき社会問題が多いということにもなる。



エネルギッシュなインドネシアの大学生と交流をすることで非常に刺激を受けた。同時に日本では大学に行けることが当たり前になっており、「大学生だからできること」が希薄化しているように改めて感じた。インドネシアのメンバーは GMB のプロジェクトをしつつ、学問も熱心に行っている。インドネシア政治や国際関係を専攻としているメンバーとの会話は非常に中身の濃いもので、私自身の政治に対する姿勢が薄っぺらいようにも感じた。

彼らはパソコンや新聞で得た情報を自分自身の中で解釈し直し、自らの考えを作成している。メディアの情報を受け入れやすい日本人（私を含む）の解釈と比べてみると、社会に対する関心の度合いが全く異なる。常日頃から情報を集める習慣、「大学生だからできること」を意識しながらやるべきことをするという姿勢からは学ぶことも非常に多かった。

次に今日もトイレに注目してみた。GMB の歓迎パーティーは、インドネシアの中心地から約 15～20 分ほどのオフィスで開催された。その際に撮影したトイレであるがホテルの水洗トイレと多少、異なる。トイレットペーパーはトイレで流せないため、横に設置されたゴミ箱に捨てなければならぬ。もしくは便器の横についているシャワーで自身の尻をウォシュレットの手動版のように使って、洗浄する必要がある。非常に立派なオフィスであったが、ホテルや空港、大型のショッピングセンター以外ではトイレットペーパーを流せないのである。

午後は身体的な障害を持つ子供が集まる施設を訪問した。耳が聞こえない若者が多かったため、インドネシアの手話を教えてもらい、交流した。日本の遊びとしてハンカチ落としを紹介した。日本では大学生になると全く盛り上がらない遊びであるが、インドネシアでやってみると GMB のメンバーから、子供たちも含め、非常に盛り上がった。今回の訪問により、少しでも日本の文化に触れ、興味を抱いてくれたらと考える。

	<p>この施設は、インドネシアの GMB の卒業生が開始させたものである。インドネシアの大学生は先述したように、国内には多くの社会問題があることを認識できている。おそらく私を含めた日本の学生もこの段階までは同じであるが、インドネシアの学生は実際の行動に移す。GMB という枠組みの中でも、多くのプロジェクトが進行しており、メンバー達は学問と両立しながら社会問題の解決に尽力している。</p> <p>日本とは文化や考え方、国の状況は全く異なるが、学生のインドネシア社会の問題に対する姿勢は日本人学生が学ばなければならないことである。</p>
8/30 (日)	<div data-bbox="312 568 708 931" data-label="Image"> </div> <p>インドネシアの朝は早い。ムスリムの人たちは朝6時からのお祈りで1日が始まるという。ムスリム人口が世界一多いインドネシアでは、当然多くの人たちが朝早くから活動している。そのため、朝早くから渋滞ができるのだが、日曜日の朝だけは、ジャカルタのメインストリートでの車の通行が禁止される。よって多くの人たちがこのメインストリートに集まり、ランニングやウォーキングをして体を動かしているのだ。さらに、路上マーケットでの買い物を楽しむ親子連れも多く見かける。</p> <p>都市化が進む中で、ジャカルタではメインストリートにおいて、地下鉄の建設が進んでいるが、その背景には日本との結びつきが伺える。地下鉄建設は日本政府や企業による全面的な協力によって行われることを示すポスターが多く見受けられ、工事を行っているショベルカーなども日本企業のものである。さらにショッピングセンターに行ってみると、レストランフロアでは、吉野屋や丸亀製麺、ココイチなど約3割が日本のレストランで占められていた。インドネシア市場が日本企業にとって本当に魅力的であることを改めて実感させられた。</p> <p>今日の午前は、ストリートチルドレンや、金銭的な事情により学校に通えない子供たちをジャカルタ中から集め、音楽やダンスを楽しむイベントの見学をした。やはりそこにも多くの学生や社会人のボランティアが参加し、イベントの開催に携わっていた。</p> <p>イベントを開催した主催者の方は、「子供たちが社会と接する機会を提供し、少しでも夢を持てるような環境を作るためにこのイベントを開催している。私たちが先駆者となり、後の世代が続けるようにしたい。」と、このイベントを開催する意味を語ってくださった。インドネシアでは社会問題が非常に多く、政府だけでは対応できない問題の一つが教育である。よって教育に関する NGO がインドネシアでは多く存在し、次世代のインドネシアを担う子供たちの支援を行っている。大学に通うことができる大学生が中心となって格差是正を目指し、大学に通える自分たちの知識や経験を少しでも伝えられるように尽力している。インドネシアに来て何度も思うことだが小、中、高、大と不自由なく学ぶことこそが幸せであり、感謝すべきことである。</p> <p>午後はジャカルタのスラム街へと足を運んだ。私のイメージとしては、スラム街とはトタン屋根1枚で、野ざらしの家が連なっているものだと思っていたが、実際は非常にしっかりした住宅が連なっていた。しかし生活用品は隣接する川から拾ってくるなど、暮らしぶりは決して良いものとは言えない。さらに隣接する川へは各家庭の排水が未処理のまま流され、とても生き物が生息できる状況ではない。加えて雨季になると洪水が頻</p>

発する地域でもあるらしく、中心部で富裕層が受けている恩恵がスラム街の住民たちにとって大きな被害となっていることを感じる時間となった。自分の目で確かめた現在の状況は、私自身のバックグラウンドを形作るうえで重要になる。



ジャカルタ滞在最終夜ということで GMB のメンバーがジャカルタの観光地を紹介してくれた。私が最も関心があったのはなんとといっても初代大統領スカルノが独立を宣言した広場である。戦後独立した歴史の浅い国であるからかもしれないが、学生はみな自国の歴史についてよく知っている。さらに政治への関心も強く、特に政治学を学んでいるメンバーとは、話していて話題が全く尽きなかった。インドネシアは「比較的」安定した民主

主義国家と言われているが、民主主義の発展を停滞させているのが汚職、国軍、ヤクザと言われている。政治の舞台でも汚職が未だに蔓延していることはジャカルタ内で多く見受けられた。例えば建設中のビルが中止になっていたり、歩道の舗装が整っていないなど。これは建設途中で反対派などによるわいろでプロジェクトがストップしてしまったからだという。インドネシアの若者はこのような理不尽な社会と戦っている。オランダや日本の占領体制と戦ったスカルノをはじめとした当時の英雄たちと姿が被るような気がした。

8/31 (月)

ジャカルタ滞在中、私たちに全面的にバックアップしてくれたジャカルタの GMB のメンバーに別れを告げ、ジョグジャカルタへ向かう電車に乗った。ジャカルタでの滞在は1日1日が非常に中身の濃いものであった。ジャカルタはまさしく現在の東南アジア新興国の縮図と言えるだろう。急速にビル建設やインフラ整備が進む一方で、その影響を受ける貧困層が存在する。その格差を是正しようと大学生が立ち上がり、彼らが将来のインドネシアを支えるのであろう。



約七時間の長旅を終え、私たちはジョグジャカルタに到着した。駅に降り立つとジョグジャカルタの GMB メンバーやホストファミリーが私たちを迎えてくれた。ジョグジャカルタはインドネシアの京都といったところであろうか。長い歴史を持ち、様々な文化が発展し、学生の街でもある、インドネシア有数の観光都市だ。車の数はジャカルタほど多くはないが、学生が多いからか、バイクの数がものすごく多い。しかしジャカルタに比べると、空気は澄んでおり、非常に暮らしやすい場所だと考えられる。約二週間のジョグジャカルタの滞在を有意義なものにしていきたい。

9/1 (火)

大音量の音と共に目が覚めた。午前五時、第一回目の祈りの時間を知らせる放送が街中に響き渡る。ムスリムの生活はこの放送からスタートする。今日は各インターン先の NGO を全員で訪問し、彼らの活動について話を聞き、お互いがどのような場所でインターンを行うかを知るための機会だ。当然、私の研修先である



「Habitat For Humanity」にも訪問し、私がどのような活動をするのか伺った。偶然にも、私の研修期間中に、同志社大学の学生が複数ボランティアとして当 NGO で活動しているという。彼らがどのような考えからこの活動に参加しているのか伺う良いチャンスである。

今日是一日を通して、他のメンバーの研修先を訪問したが、多様な社会であるインドネシアでは多様性に伴い、多くの複雑な社会問題が存在しており、政府だけでは手の届かない範囲まで広がっていることを確認した。日本でも同様であるが、インドネシアの方がより大きなスケールで、より根本的な問題であると感じる。

今日気づいたことは、インドネシアでは大都市の中心部やメインストリートでは、洪水を防止するための下水システムが存在することである。



日本とは多少異なるが、歩道の下に雨水をコントロールするための溝があり、雨水はそこを流れて川などに流されるらしい。さらに住宅街には、写真のように各家庭に沿って溝が存在する。全ての家庭排水がここに流れ着くかは不明ではあるが、雨水を処理するという問題には対応できているのだろう。本来なら、少々車線を封鎖してでも、パイプを埋め込むべきであろうが、インドネシアの交通状態ではとても不可能である。果たして有効な手は何であろうか。

最後にジョグジャカルタの伝統的な祭りに参加し、伝統舞踊を楽しんだ。

おそらく日本ならば、大勢の人たちで集まるフェスティバルにおいて、完全なまでにダンスが合うまで練習するであろうが、そこはインドネシアクオリティ。完全にずれてはいないものの、決して息の合ったダンスとは言えない。しかしこれも、インドネシアの愛すべき点であるのかもしれない。



9/2 (水)

今日は昨日回りきれなかったメンバーの NGO に訪問した。今日、訪問した NGO はインドネシアの人権を保護する団体が多く、政治を学ぶ身として勉強になることが多かった。まず初めに政治的な圧力から人権を保護する活動を行っている NGO を訪問した。

インドネシアは約32年間に及ぶスハルト独裁政権から1998年に民主化した国である。私が講義で学んだ限りでは、スハルト以後、国民やメディアには表現の自由が与えられ、決して政治的な圧力は受けないということであった。しかし実際には、大部分において自由は認められたものの、政府や軍隊にとって都合の悪いものは逮捕されるなど、政治的な圧力が未だに存在している。おそらく日本でも同様であろうが、権力層において本当に都合の悪いものの自由は制限されることを感じた。

続いて、同じく人権保護を目指す NGO に伺ったが、同じジャンルの団体であっても内容は異なる。現在この団体が目指しているのは、軍の法律をつぶすことである。インドネシアでは軍人が犯した罪は一般の法律とは異なる軍法で裁かれるという。時として思いもよらぬ非常に緩い罰則で落ち着くこともあるという。日本でいうアメリカ軍を日本の法律ではさばくことが難しいといったところであろうか。

目標達成に向けた行動は日本と似ており、デモなどで政府に国民の意思として働きかけるか、公聴会などに出向き、意見を述べるかだという。小さな団体では国は動かせないが、多くの共感する人たちを巻き込んでいけば政府を動かせるという。

私は国民の意思を伝えるために、多くの人々を巻き込んで政治の場に訴えかけることは非常に重要なことであると考えているし、これこそ民主主義だと思う。しかしそれだけでは政治を動かすことができないこともまた事実である。例えば、インドネシアでスハルト以降、比較的安定した民主化を維持できたのは軍によるクーデターが起きなかったことだと言われている。タイやフィリピンでは軍が時として暴走し、国民の自由を奪ってしまっている。インドネシアでクーデターが起こらなかった大きな理由が、既得権益をそのまま残し続けたからである。軍法もそのうちの一つであろう。もし、政府がこの既得権益にまで手を付け始めたら、インドネシアもタイやフィリピンの二の舞になりかねない。

しかしながら、これは明らかに理不尽なものであるし、民主主義を覆すことである。誰かが声を上げ続け、過半数多数の国民の同意を得られたとき、改革は前進するのかもしれない。

昼食後、スラム街の子供たちの教育を支援する NGO に伺った。インドネシアでは、たいいていのスラム街が不法住宅であり、川や電車の線路の近くに軒を連ねている。この中でも川のそばにあるスラム街は非常に深刻な問題である。

なぜなら雨季には洪水が起こり、彼らの生活に大きな影響を与えるためである。さらに生活排水や家庭ごみそのまま川に捨てられ、河川の汚染が非常に進んでいる。ジャカルタの河川ほどではないが、多くのゴミが散乱し、魚が住めたとしても、公害問題が起きた時



	<p>代の日本のように、汚染された魚を食べ続けると、非常に大きな犠牲を生むことになるであろう。政府が彼らのために動かない限り、インドネシアでも、大きな公害問題が発生するに違いない。</p> <p>最後に、日が暮れるまでサッカーをしていた少年たちを観察していて思ったことがある。それはサッカーというスポーツの優位性である。多くの道具が必要な野球とは異なり、グラウンドとボールさえあればできるサッカーは、どのような国、地域でも受け入れられやすい。裸足で無心のままボールを追いかける彼らを見て、エネルギーを感じる一方、少し寂しさも感じた。同時に日本で育った環境のありがたさを感じた。勉強ができる環境、好きなスポーツができる環境、必要な道具が揃う環境。テレビで見ていた今までは感じなかったことを感じる事ができた一日であった。</p>
9/3 (木)	<p>いよいよ NGO での研修が始まった。私が研修を行う「Habitat For Humanity Indonesia (以下 HFHI)」はアメリカ発の NGO で、世界各国に支部が存在し、インドネシア国内だけでも、ジャカルタにある本部を筆頭に7つの支部が活動している。活動内容としては大きく分けて二つあり、一つは貧しい人が災害などから身を守るために家の建設を行うこと。もう一つは、衛生の改善や環境の破壊を防ぐための公共事業の改善に努めることである。ここでの公共事業というのは、きれいな水の供給や、家庭排水が流れる排水溝の改善、電気の取り扱いなどである。</p> <p>当然のことながら、家を建てるまでに様々な過程を経る必要がある。まず初めに行うのが現地の調査である。十分でない住宅がどれほどあり、一か月の収入が1万円以下の人たちがどれほど住んでおり、一体何世帯が新たな住宅を必要としているかが調査対象となる。もしその地域の自治体が多く正確な情報を持っていた場合は、一日で調査は終了するが、不十分な情報しか持たない場合は、自分たちで確認しなければならないため、多くの日数を要する。次に寄付者である会社や個人がイメージしやすいように計画書を作成し、彼らに報告する。ここでは当然ながら材料費や燃料代、人件費などのコスト計算も行う。HFHIは労働力をコミュニティ内から雇うため、労働者の雇用の機会も、一時的にはあるが生み出している。</p> <p>日本では、私を含めて寄付の文化というものがあまり定着していないイメージがある。対照的にインドネシアでは、社会問題に対する責任感を持つ会社はそろって NGO の活動に寄付をする。経済成長期であるため、ほとんどすべての会社が自己の利益を追求するために、多少の社会問題の発生も厭わないと考えていたが、実際は社会に対する強い責任感を持つ会社がインドネシアの NGO や NPO の活動を支えており、先進国日本よりも、社会問題に対する姿勢が前向きであるように感じる。</p> <p>私がインターンを行う HFHI では今日より、同志社大学の国際ボランティアサークルが、HFHI の活動に参加している。活動内容は彼らが家の建設を行うのに対し、私はどのように NGO を運営するか、どのように生活インフラは整備されていくのかに興味があるので、彼らとは別に担当者がついてくださる。お互い初日同士であるにも</p>



	<p>関わらず、自分が担当して HFHI に関して説明させていただいた。同じ大学の学生の前だと、なぜかいつもより緊張してしまい、さらに英語で説明するとなると頭が全く回らなくなってしまった。スタッフの方の手助けにより何とか説明は終えたが、非常に申し訳ない結果になってしまった。</p>
9/4 (金)	<p>研修初日であった前日とは異なり、多少リラックスして研修先に向かうことができた。スタッフの方々には本当に親切で、わからないことを尋ねると、丁寧に説明して下さる。しかしどうしても言葉の壁は厚い。インドネシア英語と日本英語では、発音やイントネーションが異なることは珍しくない。理解しようとしても、相手が何を言っているのか、言いたいことを伝えようとしても、相手に全く伝わらないことが多々ある。そんな時に私を助けてくれるのが、私の研修を支援してくれる学生サポーターの Didim である。彼は私の日本なまり英語をしっかりと理解してくれ、うまく翻訳してくれる。彼なしでは私の研修は、うまくいっていないであろう。</p> <p>感謝してもしきれないほど彼には世話になっている。毎日の送り迎えや食事の案内など、本当に良くしてくれる。私もインドネシアのことについて彼に尋ね、彼も日本のことについて私に尋ねる。非常に良い関係が築けていると自負している。心から感謝の意を表したい。</p> <p>今日は公共インフラ、特にインドネシアの上下水道について学んだ。インドネシアでは、水道の水を飲むことはできない。よって多くの人々が飲料水は市販のペットボトルを購入するのだが、これが信じられないほど安い。1, 5リットルのペットボトルでミネラルウォーターが約35円である。よって多くの人たちが飲料水として市販の水を買う。しかし洗濯やトイレ、その他の生活用水は主に地下水を使用する。</p> <p>地下水の供給は、ほとんどの場合、地方公共団体によって行われる。各家庭には計測器が設置されており、いくら水が使用されたかがわかる仕組みとなっており、日本と同様である。しかし裕福な家庭の人たちは、各家庭で井戸を持っているため、そこから汲み上げた地下水を使用している。反対に貧困層の人々は公共料金を払えないため、自治体のサービスを受けることができない。よって、各コミュニティに一つ井戸を作り、非常に安い価格で水を手に入れることができる。経営や維持もコミュニティが行う。HFHIはこのコミュニティの井戸づくり支援している。当然のことながら、ただ単に井戸を作るだけではなく、プロジェクト終了後もコミュニティで維持できるように住民たちの訓練も行っている。</p> <p>支援活動をする際に、ただ何かを建設するだけでは意味がない。現地の人をトレーニングし、労働者として雇い、さらにその後の維持をするためのスキルやノウハウを育成することも重要になる。日本のかつての支援は、現地の人たちの教育を行ってこなかった。その反省から、支援の形が見直され、現</p>



地下水の供給は、ほとんどの場合、地方公共団体によって行われる。各家庭には計測器が設置されており、いくら水が使用されたかがわかる仕組みとなっており、日本と同様である。しかし裕福な家庭の人たちは、各家庭で井戸を持っているため、そこから汲み上げた地下水を使用している。反対に貧困層の人々は公共料金を払えないため、自治体のサービスを受けることができない。よって、各コミュニティに一つ井戸を作り、非常に安い価格で水を手に入れることができる。経営や維持もコミュニティが行う。HFHIはこのコミュニティの井戸づくり支援している。当然のことながら、ただ単に井戸を作るだけではなく、プロジェクト終了後もコミュニティで維持できるように住民たちの訓練も行っている。



在ではコミュニティが問題定義からプロジェクトの計画、遂行、維持まで行えるようなトレーニングを実施している。HFHI の場合も同様であるが、海外、特に日本からの学生ボランティアが多いため、インドネシアの労働力分を補ってしまっているのではないかという疑問も浮かんでくる。



午後からは HFHI が行っている、雨水対策のプロジェクトを視察した。インドネシアでは、多くの貧困層の人たちが川の近くに住んでいる。そのため、雨季に洪水が起きると、多くの人たちが被害を受ける。そのため HFHI はこれらの地域での洪水の発生を防ぐため、水路を建設した。この丈夫な水路のおかげで、洪水の被害を削減できるという。

しかしながら、各家庭からの生活排水もこの水路に流れてしまっているため、未処理の生活排水が河川に流れてしまっているのが現状である。少量とはいえ、長年この状態が続くと、公害問題につながりかねない。

下水が普及する第一歩として雨水の水路は完成している。しかし、汚水を処理する手立てが未だにないことが大きな問題である。これは都心でも同様である。しっかりした水路があるにもかかわらず、汚水が垂れ流しでは元も子もない。しかし政府は最優先課題として、渋滞の緩和に力を入れているという。確かに、都市部での水路建設は、車やバイクの数が果てしなく多い東南アジアでは難しい。一つ一つ段階的に解決していかなければならないが、時間がかかる。その間に公害問題が起きかねない。非常に難しい問題である。

9/5 (土)

今日は土曜日ということで、私たちの研修をサポートしてくれている GMB のメンバーたちがジョグジャカルタの観光地を案内してくれた。ジョグジャカルタは京都のような風情あふれる街であり、仏教寺院、ヒンドゥー寺院、モスク、教会が非常に多い、多様性のある町である。その中でも仏教のボロブドゥール寺院とヒンドゥー教のプランバナン寺院はともに東南アジア最大の寺院であり、世界遺産にも認定されている。異なる宗教の世界遺産寺院を見られるのは、多様国家のインドネシアならではの楽しみだろうか。

まず初めにボロブドゥールに行った。驚いたことにインドネシア人と外国人の入場料が異なる。インドネシア人が約300円なのに対して、外国人は約3500円もする。学生割引を使用して2000円に割り引かれたがそれでも約7倍である。彼らに理由を尋ねると「インドネシアは途上国だから、お金のある外国人からは多くとる戦略だよ」と回答があった。確かにそれも作戦のうちの一つかもしれない。世界遺産という観光資源は、税収入の面で非常に強みのあるものだ。特に世界遺産ともなれば、少々高くとも金を払って見るだけの価値を見出しやすいだろう。しかし、外国人側からすると？が頭から消えない。少額ならわかるが明らかに悪意のある、金のとり方に思えてしまう。だがしかし私の場合は、そこに払った金額分だけの価値を見いだせたので問題はないのだが。

ボロブドゥールの入り口、出口付近では日本でいう居酒屋のキャッチのような人が大勢おり、必死になって外国人を捕まえてお土産を売ろうとしている。さらにボロブドゥールを見終わってから出口にかけて、長い伝統的な市場がある。せっかく来たので、ボ

ロブドゥールの置物を買おうと、ある店に入ったのだが、置物一つ800円ということでもう少し安くしてくれといったところ500円になった。それでも少し高く思えたので、ほかの店を探そうとすると「わかった、300円でいいよ」と値引いてくれた。おそらくこれが本来の値段なのであろう。外国ではよくあることかもしれないが、外国人だということで、非常に高い値段を設定してくることがある。インドネシア人の Didim がついてくれているおかげで、何とか安く買えたが、もし一人ならば大変なことになっているだろう。



昼食後は Didim がボランティア活動を行っている休日スクールを訪問し、日本の紹介、日本に関するクイズを楽しんだ。ここに通う生徒たちは、貧困層ではないが、国際社会で生き抜くため、また新たな社会リーダーの育成のために英語、経営学などを学んでいる。彼らは非常に高い志を持っている。おそらくここにいる何人かは将来のインドネシア



アをしょって立つ存在になるだろう。そのような彼らに日本の文化を紹介して、少しでも日本に興味を持ってもらえたら幸いである。

フリースクールを後にして、我々はプランバナンへと向かった。世界遺産のプランバナンだが、水回りの整備は進んでおらず、現在工事が行わ

れている状況であった。工事用に使う水であろうか貯水タンクが人目をはばからずに設置されている。インドネシアの課題の一つが水回りの改善である。プランバナンのような、観光地から徐々に、段階的に改善していこうという姿勢は見えてくる。しかし、政府はあまり優先課題として水回りの改善を考えていないようである。汚職により途中で建設中止になるビル建設よりも、国民の健康を守る衛生問題の改善に向ける術はないであろうか。やはりそのためには、国民に少しでも環境問題のことを伝え、徐々に大きな力にしていくしかないであろう。



9/6 (日)

本日も休日ということで、NGOでのインターン活動は行われなかった。よって今回は、いつもお世話になっているGMBのメンバーにお礼の意味も込めて、お好み焼きをご馳走した。ご馳走したといっても彼らが自ら、焼いたものではあるが。

GMBのメンバーに加えて、私たちのメンバーの一人である轡見さんが研修を行っている「Stichiting Help For Jogja」の生徒さんやスタッフの方、総勢30名が参加する壮大なものであった。彼らが楽しみながら、お好み焼きづくりをし、おいしそうに頬張る姿を見ているととてもうれしい気持ちになった。外国の人達に日本の食事を紹介する際に、寿司に次ぐ2番目に良いものはお好み焼きであると私は考える。味がおいしいの



ももちろんであるが、なんといっても楽しみながら作ることができる。ただ単に食事をするだけではなく、自分が作ったものを食することができることは、日本を知ってもらう上で非常に有意義なものになるだろう。

お好み焼きの他にも、ホストマザーがソト・アヤムという鶏肉のスープを作って下った。インドネシアの家庭ではよくあるようだが、この家でも庭に鶏を飼っており、食す際に自らさばいて調理を行う。日本での生活の中で、魚をさばく場面は何度となく見てきた

が、鳥などの動物類をさばく場面を見るのは初めての経験であり、少々カルチャーショックを覚えた。同時に改めて食事のありがたさを感じる機会となった。兎にも角にも休日のランチを大勢の人と日本の文化、そしてインドネシアの文化を教え合いながら楽しめたのは、非常に良いことであった。

夕食はホストファザーであるAzizさんをご馳走して下さった。Azizさんはインドネシアで最も古く、トップレベルの大学である「ガジャマダ大学」

で遺伝の研究をされておられる教授である。1993年から1999年までは千葉大学に勤務されており、日本語も非常に達者である。彼は私をスルタン宮殿の敷地内にある、



いかにも高級そうなレストランへ連れて行ってくれ、鶏肉やナマズ、豆腐などのインドネシア料理をご馳走して下さった。ジョグジャカルタには日本の天皇制のように、シンボルとしてスルタンが存在する。スルタンとはイスラムの王のことを言う。ジョグジャカルタの場合は、日本と同様でスルタンはシンボルであり、政治には

一切介入できないという。そのような方が住まれている敷地内のレストランでの夕食。日本に置き換えるならば、京大教授のホストファザーと、皇居内にある高級日本料理店で食事をするということになる。緊張した度合いでいうならば、今までの食事の中で五本の指に入る食事であった。



9/7 (月)

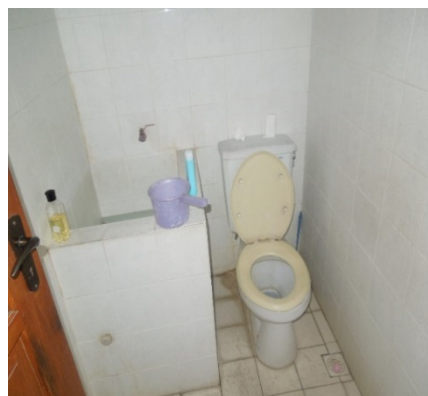
楽しかった休日も明け、再び研修が始まった。今日はジャカルタにある HFHI 本部からゲストを迎えて、会議が行われた。会議の内容はインドネシア語で行われたため、私は会議に参加することができず、ファイナンススタッフの Endang さんと共にデスクワークを行った。しかし、デスクワークと言っても来週から HFHI でボランティア活動を行う京都外国語大学の生徒さんたち用の名札やテキストの作成である。明日は、河川の事業の見学に連れて行ってってくれるそうなので、今日何もできなかった分、学びを深めたい。

夕食は、GMB のメンバーと共に食べた。偶然にも、私たちのメンバーの一員である藤原さんの担当指導者の先生がインドネシアに滞在されておられるということで、先生を含めた食事会になった。



インドネシアの食事の安さには本当に驚く。今日の夕食会は、フォーマルでおしゃれなレストランで開かれたが、グダックというご飯にチキンや卵がついたジョグジャカルタの伝統料理と、600ミリリットルのミネラルウォーター、そしてメロンを半分に切り、種を取り除いた部分に大きなアイスが入ったデザート合計金額がなんと380円である。昼食の場合は、目玉焼き付きのインドネシア版チャーハンを80円で食べることができる（しかし屋台のため、なかなかの数のハエが寄ってくるが）。ジョグジャカルタでは、昼食が約100円、夕食は250円でおなか一杯食べることができる。さらに味も非常においしい（しかしジョグジャの人たちは甘いものと辛いものが大好きで、その落差は非常に大きい）ので衛生以外の面では、食事に困ることはほとんどないといえる。

インドネシアに来て10日以上が経つが、こちらの生活にも慣れてきた。その最たる例がトイレ&シャワーであろう。インドネシアでは、日本でいうところのユニットバスが一般的である。一般的どころか、ホテル以外はこのスタイルだと考えられる。当然お湯などは出ず、写真の左側に移っているように水溜に水をためて、桶で水をかけて、体を洗う。最初こそ抵抗はあったものの、慣れてくれば困ることもなく、風呂に入ることが嫌になることはない。ちなみにインドネシア人は朝と夜の二回、シャワーを浴びる。日本人が基本的には一日に一回しか入浴しないことを伝えると非常に驚き、「不潔だ。」とも言ってくる。さらに火山大国インドネシアには日本同様に多くの温泉が存在するが、浴槽につかる文化がないため、誰も入りにいかないという。ホストファザーに、日本にきて一番驚いたことを尋ねると、温泉にみんなで入ることだとおっしゃっていた。おそらく水回りの違いが最も大きな文化の違いであるように感じられる。



9/8 (火)

今日の研修は、ジョグジャカルタ南部に位置する山間部、セルピャミョロ地域でのプロジェクトの視察であった。ジョグジャカルタの中心部は北部に位置している。ジョグジャカルタの土地は、北部に行くほど良質な土壌の量が多く、南部に行くほど土壌よりも

石の数が多くなり、水を確保することが難しくなる。なぜならば、土壌の良い北部に比べて、大きな木が成長しにくく、さらに土壌の下が石であるために、雨水や山の湧き水が全て流れていってしまうからである。



よって彼らが水を得るには、地中奥深くを流れる地下水を掘るか、飼っている牛を売って水を得るしかないという。北部の人々は、子供たちの教育のために、牛を売ってお金を得ることができるが、南部の人々は生きていくため（特に飲み水）に牛を売るため、子供たちが高等教育を受けることができないという教育格差が広がっている。さらに南部の若者は、職を求めて、都市部へ出ていくため、日本の田舎同様、過疎化の問題が進んでいるという。そんな中、昨年の大統領選で当選したジョコウィ大統領はこの問題を深刻に受け止め、優先課題のうちの一つとして、このような環境的に良好ではない土地への補助に乗り出しているという。一刻も早い改善が待たれる。

このセルピャミョロ地域は、山間部であるため、多くの人々が農業やプランテーションに従事しておられる。特にタバコはこの地の名産品らしく、多くのタバコ畑を見ることができた。左の写真はタバコの葉を刻んで、乾燥させたものである。三日ほど乾燥させると、しっかりとしたタバコになるという。ちなみに乾燥させたタバコの葉を、会社や業者に売るのが、一キロ当たり500円ほどという。どんなに良質なものを作っても、安い値でしか売れないという環境が、この南部には存在している。おそらく、彼らは買い手を選ぶ手段を持っていないものと考えられる。まずは、自由な市場取引を行える状況を作り出すことが、政府が取り組むべき問題であるのかもしれない。



セルピャミョロ地域の主なプロジェクトは住宅建設である。私の研修期間中に、同志社大学の国際居住建築サークルの学生さんたちが、HFHIのジョグジャ支部にボランティアとして、参加することもあり、私も昼食後、建設プロジェクトのお手伝いをさせていただくことになった。住宅を一から建設するという経験をできることなど、なかなかないので非常に良い経験となった。HFHIでは、毎年多くの日本人学生や団体がボランティアとして参加するとい

いう。ボランティアで労働力として働くということは素晴らしいことであり、否定するつもりは全くないが、同時に現地人の雇用の機会を奪ってしまっているのではないかと感じる。私たちが善意として、現地の人たちの役に立ちたいと思い、ボランティアに参加したことが、思いもよらない結果につながる可能性があることを教えてくれた良い例であった。

	<p>先述したように、ジョグジャカルタには多くの大学が存在する学生の街である。よって車よりも歩行者よりも圧倒的にバイクの量が多い。そのため、ラッシュ時になると、道路がバイクで埋め尽くされ、信号付近では車が立ち往生してしまうケースが多々ある。そのような交通問題を解決するために、車専用レーンとバイク専用レーンが分けられている。渋滞緩和の策としては当然かもしれないが、策が功を奏している部分において私は非常に感心した。</p>
9/9 (水)	<p>今日も前日に引き続き、セルピャミヨロ地域での住宅建設を行った。プロの職人たちが建設を行えば、たった五人で二週間以内に新しい家が完成するという。ただし、他国からのボランティアが行った場合は、例え十人で取り組んだとしても三週間はかかるという。ボランティアが本当に役に立っているのか。逆に迷惑をかけているのではないかなどと考えてしまうが、HFHIのスタッフの方々は、それでも海外からのボランティア参加は非常にうれしいことだとおっしゃっていた。ボランティアではない私に言うほどであるから、本心に違いはないであろう。彼らがうれしく思っているのなら、ボランティア活動が一定の成果を出しているといえるだろう。</p> <p>家づくりは土台作りから始まる。私が参加した時にはすでに土台作りは終わっていたので、リアルな建設内容をお伝えすることはできないのは残念である。土台が出来上がると、次は骨組みづくりである。四本の棒をワイヤーを使って固定し、骨組みを作る。全て手作業なので素人の私たちが作って、本当に大丈夫であるか心配であったが、職人の方々が大丈夫だよと言ってくれたので問題ないと考えられる。今回建設している家は小さなものであったので、この骨組みで充分であったが、大きい家や学校などの大きな建物を建築する際は、竹をまず初めに土台として使い、作業が進むにつれて鉄製の骨組みへと変更させていく。</p> <p>骨組みが完成すると次に外壁の建設に取り掛かる。外壁は骨組みに沿って煉瓦で作られる。この煉瓦は土できていて、水分が多く含まれていると簡単に崩れてしまう。形を崩すことがないように慎重に運び、積み重ねると、外壁を強化するためにセメントを使って舗装する。この作業が本当に難しい。職人さんたちはいとも簡単に塗ることができるのだが、私の場合は半分以上のセメントが壁につき切らず落ちてしまう。時間が経つにつれて慣れていったものの、最後まで終了することができずに申し訳ない結果となってしまった。</p> <p>たった二日間ではあったが、家を建てるという経験はなかなかできないことなどで、非常に貴重ではあった。しかし同時に、ボランティア活動とはと考えさせられる機会になった。現地の雇用を奪ってしまい、かつ時間がかかり質的にも下がってしまうのは、果たして現地の人たちにとって有益なことなのだろうか。日本人学生の自己満足が思いもよらない結果につながってしまっていることがわかり、少々ショックであった。</p>



9/10 (木)

日程的には明日が最後となるが、最終日は報告のみなので実質今日がインターン研修の最終日であった。



今日までの研修期間中に、住宅と公共事業の建設現場を見学させていただいた。最終日は HFHI の協力機関である AKPRIND UNIVERSITY を案内して下さった。この大学はジョグジャカルタに数ある大学の一つで、テクノロジーやバイオロジーを専門とする理系の私学である。なぜ HFHI はこの大学と協力関係を築いてきたのか。それは両者が得をするウインウインの関係を築くことができたからである。HFHI は、この大学に対して①公共事業の建設を行う際に、水質調査を依頼することができ②新たな機械が必要な際は、低価格で高い性能を持つものを手に入れることができ③公共資材を維持・運営していく中で、住民をトレーニングするための講師を依頼することができる。反対に大学側は①生徒が新しい研究を始める機会を得ることができ②学生がソーシャルプロジェクトに自分たちの専門分野を活かして参加することができ③HFHI が新たな機械を欲する際に、材料費を払わず、新たな研究を行えるなどといった利益がある。このように、HFHI は多団体との強力な関係を築くことで、自分たちが専門分野でない範囲において、低価格でかつ効果的に補うシステムを確立してきた。資金や人材が豊かではない NGO や NPO を経営していくうえで、多団体との協力が不可欠であることを学ぶことができた良い機会であった。



(Before)



(After)

午後からは KALI WINO 地区で防波堤の建設プロジェクトを見学した。この地域はジョグジャカルタの主要な川の一つである WINO 川沿いに位置しており、雨季に水かさが増した際には、洪水が起きることもあるという。雨季に備えて、乾季である今うちに古くてもろくなった部分を修理しているという。日本では大型の台風が直撃し、川が氾濫。多くの人が死亡・行方不明であるとヤフーニュースで見た。我が国日本も、インドネシア同様に台風や地震、火山や津波などの災害大国である。特に私たちは海や川の恩恵をふんだんに受けて反映してきたが、時には私たちの生活がそれらによって攻撃されることもある。そんな際に備えて私たちができることは行う必要がある。長年起きていないからと言って危機感が無くなったときに大きな災害が起こる。いかに被害を最

小限に抑えられるかは、日々の準備の度合いにかかっているのである。



以上で今回の研修は終了した。研修中に学んだこと、経験したことは多々あるが、何よりも現地の状況を実際に見ることができたことが一番の経験であった。HFHIのスタッフの方々は本当に親切で、私は何の不安もなくインターンを行えることができた。私の乏しい英語を必死に理解してくれようとしたし、私に一生懸命英語で説明してくれた。言葉

の壁は大きかったものの、ジェスチャーや筆談も含めた、それを乗り越えられたように思う。私の活動に同行して下った ONDE さんとの別れは非常に寂しいものである。日本から来た私を受け入れてくださり、いろんなことを学ばせていただいた HFHI の方々に心から感謝する。

9/11 (金)



研修自体は昨日終了したものの、今日は最後に私のインターン活動について、また日本で勉強してきた下水システムについての発表を行った。HFHIのスタッフさんを前に活動の振り返りと、感謝の気持ちを伝えられたことも非常に良かったが、何よりも私が調べてきた日本の下水システムに興味を持ってくださり、ぜひ情報をくれと言ってくれたことが何よりもうれしかった。出発前に心配していた、私の調べてきたことが無駄ではなかったのかという不安が一瞬にして吹き飛んだ一言であった。

HFHIでは現在、セントラルジャワで下水処理プロジェクトを計画中であるという。そのプロジェクトにおいて、寄付者を募る際や現地の住民の方々にプロジェクト内容を説明する際に、なぜこのプロジェクトが必要なのか、このプロジェクトを進めていくとどのような恩恵を受けることができるのか、日本では下水がないがしろにされたために大きな公害問題が発生し、多くの人々が亡くなったなどと私の文章を取り入れて説明して下さるといふ。ただ単に受け取っていただくだけではなく、実際にそれを使用

して下さることに心から感謝すると同時に、四か月間自分なりにやれることを行った成果が実を結んだように感じられて非常にうれしかった。

学びの多かった HFHI での研修を終えて、私たちはガジャマダ大学へと向かった。ガジャマダ大学はインドネシアでもっとも古い大学であり、インドネシアの中でも最上位層に位置する大学の一つである。私たちがガジャマダ大学に向かって理由は、現地の大学生たちとワークショップを開催するためである。集客や会場の確保を GMB のメンバーが行ってくれ、MC や受付、通訳も GMB メンバーが担ってくれた。私たちが計画したワークショップであるが、彼らの協力なくしては決して実行できていなかった。本当に感謝の気持ちでいっぱいである。

ワークショップには、100名の学生が参加登録してくれ、お題は「経済的に持続可能かつ安定的なサービスやシステムを提供することでインドネシアのゴミ問題を解決



する革新的なアイデアを作り出す。ただし大学のキャンパス内からスタートできるものに限る」。会の流れとしては各代表挨拶、ゲストスピーカーによるインドネシアのごみ問題紹介、日本チームによる日本のゴミの状況説明、ワークショップ、各チーム発表、閉会である。私は日本のゴミ問題を紹介するプレゼン役を務めた。殆ど原稿丸読みであったが、大勢の人たちの前で、しかも英語でプレゼンを行う機会など初めてであったため、プレゼン中の記憶が無くなってしまった。夜遅くまで考えた原稿であったが、英語力のなさ、説明不足などにより、原田さんとデデさんに指導・修正していただき、何とか終えることができた。

プレゼンも終わり、ワークショップでは、各チーム、インドネシアのゴミ状況を考え、知恵を出し合いながらビジネスモデルを考え出した。多くのチームに共通していたことが、コミュニティや学校内で「ガベージ（ゴミ）バンク」を設立し、住民や生徒からゴミを集める。集めたゴミで新たな商品（例えば学生向けなら筆箱など）を作り出し、売るといったものであった。それでもインターネットの活用や、「ガベージバンク」にごみを提供した人にはポイントを与え、ポイントがたまると商品に交換できるといった仕組みを考え出し、他グループとの差異化を図った。唯一、一つのグループだけが他グループとは少々異なったモデルを提唱した。それは学内で水を売るといったもので、水筒を持参すれば、容器代抜きで非常に低価格で水を買うことができるというものであった。他のグループがゴミを再利用するモデルを提唱したのに対し、このグループはゴミを出さないモデルを提唱した。日本もインドネシアと同様、4R（リサイクル、リユース、リデュース、リヒューズ）の実践を目指しているが、正直リデュースとリヒューズが徹底できていないように感じる。このモデルは、いかに水を得るかなどの問題点はあるものの、実際にプロジェクトとして計算できれば、インドネシアの社会問題の解決かつ大きなビジネスになるのではないだろうか。



序盤こそ、少々長く感じられたインドネシアの滞在も NGO でのインターンが始まって以降は毎日が非常に早く過ぎていくように感じられた。明日は GMB メンバー、お世話になった NGO の職員の方々、ホストファミリーとのパーティーである。最後に私たちを受け入れてよかったと思えるようなパフォーマンスを行いたい。

9/12 (土)

いよいよジョグジャカルタ滞在も今日一日となってしまった。パーティーは夜に開催されるため、それまでは僕の面倒を2週間見てくれた DIDIM と MERAPI 火山に行った。この火山はインドネシアの中で最も活発な火山であり、五年に一度のペースで大規模な噴火を繰り返している。特に2010年に起きた前回の噴火は過去最大級であり、百名を超える犠牲者が出てしまった。しかし、被災だけでなく、流れ出した溶岩によって作られた起伏の激しい道を活かして、ジープで観光客を案内するツアーを開催している。



ツアーでは、溶岩でできた凸凹な道を駆け上がり、火山の魅力をガイドしてもらったほか、死者が多数出た村をめぐることでどのような災害が起きたか、今後どのような整

備が必要なのかななどを丁寧に教えて下った。さらには、ジープの力強さを活かしたアクティビティも体験できた。河川敷に大きな水たまりのようなものを複数つくり、全力でその中をかけていくというものであるが、ジープの力強さと躍動感を存分に体験することができた。

ツアーの最後に噴火によって破壊された村を使ってできた小規模な博物館を案内してもらった。写真のテレビが噴火によってもたらされた熱風の強さを示している。山も河川同様、人間の生活に恩恵を与えてきた。特にジョグジャカルタでは、火山のある北部に行けば行くほど良質な土壌が多いため、多くの人たちが山のふもとや中腹で暮らしている。しかし時として大災害をもたらす火山対策が必要となる。同時に今までの被害をどう活かすかが問題となる。その点ジョグジャカルタでは、被災地を逆に観光地として利用し、大きな利益を獲得することができている。そして同時に、私たちに災害対策の必要さを示してくれている。きれいな風景、エキサイティングなアトラクションと共に、自然と共存するうえで必要なことをジョグジャカルタでは教わった気がする。



楽しかった火山へのツーリングも終え、いよいよパーティーが始まった。今まで二週間強私たちをサポートしてくださった GMB インドネシアの Azwar さんと Dede さん、



日本グループを率いてくださった原田さん、研修先の NGO のみなさん、ホストファミリーの方々、そして学校も始まった中、忙しい時間の合間を縫って私たちの研修に付き添ってくれた GMB インドネシアのみんなに心から感謝したい。

みなさんの協力があったからこそ、インドネシアで貴重な経験や学び、一生涯の友人を作ることができた。同時にインドネシア学生の社会問題への

関心、ボランティアへの参加、自分たちが始めたプロジェクトなどから多くの刺激を受けた。

来年はインドネシアのメンバーが日本に来て研修を行う予定である。私たちも彼らに負けない献身さで彼らをサポートしたい。そして彼らが日本に来て、何かを学び、自国の社会問題の解決に少しでも役に立つような研修にしたい。そして日本とインドネシア間の交流がこれまで以上に活発になり、また GMB ジャパンの活動がよりアクティブになるように努力する。私たちがさせていただいた経験を後輩の人たちにもしてもらえるように、長期にわたって GMB のプログラムが継続していくように、みんなで協力していくつもりだ。

9/13(日)	<p>当初は長く感じたインドネシアでの研修も終わってみれば時間は非常に早く過ぎていったように感じる。ジョグジャカルタに移動後、私たちの生活をサポートして下さったホストファミリーの方々、短い期間ではあったものの私たちを受け入れて下さり、様々な経験をさせていただいた NGO のの方々、そして学業と両立しながら私たちをサポートしてくれた GMB インドネシアのみんな。多くの人たちの支えがあつてこそ、私たちが充実した研修を実施できたと思う。心から感謝申し上げます。</p> <p>そして原田さん、DEDE さん、AZWAR さんのご協力がなければ、私たちは今回の研修を行うこともできなかつたし、インドネシアでの新たな出会い、学びも得ることはできなかった。私たちの至らない部分も多い中、みなさんのご期待にそえたかはわからないが、自分たちができることを探し、実行してきた四か月間であった。この四か月間は私の人生の中で、重要な期間であつたし、大きな転機であつたし、宝物である。</p> <p>私たちのサポートをして下さった全ての人に感謝したい。本当にありがとうございました。</p>
---------	--

5. 重村瑞穂（立命館大学国際関係研究科1年）

日時	研修内容
8/28 (金)	<p>● ジャカルタ、スハルト・ハッタ空港到着</p> <p>16時頃ジャカルタに到着し、現地カウンターパートナーの Dede さん、GMB インドネシアチームの学生の Desta さんが空港で出迎えてくれました。</p> <p>空港からホテルに向かう途中、早速ジャカルタ名物・交通渋滞を体験。交通渋滞を回避するための対策として、「3in1」という1台の車に3人以上乗っていないといけないという規制が通勤時間帯で特定の区間で設けられているようですが、効果がどれくらいのものなのかは疑問です。最近では</p>  <p>高速鉄道の建設の話も出ていますが、渋滞を防ぐ実践的な対策が必要だと感じました。</p> <p>ホテル到着後、ホテル近くのレストランにてインドネシア最初の夕食を取りました。氷の入った冷たいドリンクや生野菜・フルーツなどは大事をとって禁止、ということで暑いのを我慢してみんなホットティーを注文しました。</p> 
8/29 (土)	<p>● 歓迎会&オリエンテーション</p> <p>● ファタフィラ広場を観光</p> <p>● ソーシャル・プロジェクト (Youth for Diffable)を視察</p> <p>午前中はGMB設立者のAzwar氏のオフィスにて歓迎会&オリエンテーションでした。昨年日本に来日していた学生も参加していました。オリエンテーションはGMBインドネシアチームの学生から各ソーシャルプロジェクトについてのプレゼンを聞きました。民族の多様性を子どもたちに学んでもらう教育プロジェクトや、貧しい子どもたちに靴を送るプロジェクト、少年院で生活する若者の就労支援を行うプロジェクトなど、どれもそれぞれ問題意識を持って取り組んでいて、それもしっかりと学生だけで運営されているところに感心しました。それだけでなく彼らのプレゼン能力にも大いに感銘を受けました。英語力やスピーチ力も勿論ですが、パワーポイントの作り方やプロモーションビデオの作成も優れていて、彼らのポテンシャルの高さを感じました。</p> <p>ランチを食べた後は電車に乗ってコタ地区のファタフィラ広場へ。西欧風の建物が並ぶこの地区はオランダ統治時代の名残を感じました。私のパートナーとしてワヤン博物館などを案内してくれた学生は、歴史学専攻だけあってインドネシアの歴史に詳しく、植民地時代の話も詳しく話してくれました。</p>  <p>その後、ソーシャルプロジェクト (Youth for Diffable) を訪問し、ボランティアスタッフの学生から手話を教わり、なんとか自己紹介できるようになりました。彼らは耳が聞こえないけれど、感性がとても豊かで、顔の表情を使って一生懸命自分の感情を伝えようとしていました。手話も言語と一緒に国によって異なることに驚きました。友人</p> 

が大学時代に手話サークルに所属していて、何回かイベントに誘われたことがあります。日本でも彼らのような活動に取り組む友人のことを誇りに思います。ハンカチ落としも予想以上に盛り上がり、少しでも日本の文化を楽しんでもらえてよかったです。一日中エスコートしてくれた GMB インドネシアチームのみんなに感謝です。

8/30 (日)

- Car Free Day
- ソーシャルプロジェクト Sahabat Anak を視察
- ジャカルタ市内観光、高級ショッピングモールとスラムエリアを見学

朝は早起きして、毎週日曜の朝は歩行者天国になるというジャカルタ市内のメインストリート、タムリン通りへ。道路沿いにはフリマのような露店が並び、政治に関する集会やイベントも行われていました。庶民よりも少し上の階級の人たちが多いという印象で、中学生くらいの若者が道路や歩道橋の階段にたむろってタバコを吸っている姿が目立ちました。道路にはゴミがたくさん散らばっていて、一応分別用のゴミ箱が設置されているものの、中を覗くと可燃ゴミもプラスチックもミックスされていました。



その後、ストリートチルドレンに教育機会を提供している学習支援団体の Sahabat Anak が年に一度開催する参加者 600 人というキャンプイベントを訪問。驚いたのは大量の水や食料、文房具類や楽器類などすべて企業のスポンサーなどからの寄付でまかなっているということ。それだけ民間企業の社会貢献への関心が高いということが伺えます。事業の創設者の一人 Lina さんをはじめ、ボランティアスタッフの学生たちと一緒に意見交換会を行いました。去年はこのキャンプを卒業した 6 名の子どもたちが大学に進学し、現在幼稚園の先生や公務員の仕事についているとのこと。事業を継続させるための秘訣は、職員が明確なビジョンを共有すること、すべての恵まれない子どもたちが夢と明るい未来を持てるようサポートしていきたいという Lina さんの言葉に胸を撃たれました。



Sahabat Anak を後にし、ミニバスでジャカルタ市内観光へ。最初にセレブが集まるショッピングモールを訪れ、高級なパティック製品などウィンドウショッピングを楽しんだ後、再びミニバスに乗りスラムエリアへ。川沿いの簡易住宅で 12 家族が共同生活しているとのこと、確かに生活環境は決して良いとは言えないけれど、しっかりと生活の営みを感じられる空間でした。彼らはパーティーのステージ設営準備などの簡単な仕事でわずかなお金を稼いでいるそうです。驚いたのは、スラム街にも日本でいう町内会のようなコミュニティ運営の仕組みがあることでした。町長さんは住民による投票で決められるそうで、定期的にミーティングが行われます。個人的に抱いていた印象とは異なり、スラムで暮らす人々は、貧しいながらもたくましく生きているように見えました。とはいえ、やはりジャカルタの貧富の差はかなり深刻のように感じました。

<p>8/31 (月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ジャカルタ出発、電車に乗ってジョグジャカルタへ移動 ● ホストファミリーと対面 <p>ジャカルタのガンビル駅から電車に乗ってジョグジャカルタへ。Desta と Soni が駅まで見送りに来てくれました。電車は車両は古くてもクーラー完備の座席もリクライニングで快適でした。ジョグジャカルタまでの距離は京都一東京間とほぼ同じとのことで、帰りは約1時間のフライトで移動できるそうです。</p> <p>約7時間電車に揺られてジョグジャカルタに到着し、駅ではすでに GMB ジャカルタメンバーで LO を務めてくれる学生や、ホストファミリーが私たちを待っていてくれました。私のホストブラザーの Kamal がバイクで迎えに来てくれ、初めてのジョグジャカルタを早速バイクで観光。街並みはジャカルタとは違い、建物も低く、ローカルな雰囲気が出ていてすぐにジョグジャカルタが好きになりました。飲み物を買うのに立ち寄ったコンビニで、ちょっとお店の前にバイクを停めていただけなのに駐輪代を払いました。1回たったの 10～20 円ですが、かなりのバイクの量なのでこれだけで十分ビジネスになると思います。</p> <p>家は一階建てのシンプルな造りで、事前にいただいていた家族プロフィールには部屋が汚いから掃除をしてほしいというような内容が書かれていたので少し構えていた分、予想以上に片付いていて安心しました。ただインドネシア式のトイレとお風呂は慣れるまでに少し時間がかかりそうです。</p> <p>夕食は Kamal の元クラスメイトとその子の弟の4人で食べに行きました。今日が私の誕生日だったのでご馳走してくれた上にサプライズでケーキまで用意してくれていました。24歳の誕生日をジョグジャカルタでお祝いしてもらえて幸せです。</p>
<p>9/1 (火)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 受け入れ先 NGO へ訪問 (Habitat for Humanity, Sayap Ibu, Pusdema, Sticking Help for Jogja) ● FKY(Jogja Art Festival) <p>今日はミニバスに乗ってまず、世界で住宅支援を行う国際 NGO の Habitat for Humanity を訪問しました。日本人も学生もボランティアでよく訪れるようで、偶然にも明日から同志社大学の学生 20 人ほどこちらのオフィスでオリエンテーションをするそうです。</p> <p>Habitat for Humanity を後にして、Sayap Ibu を訪問。障害を持つ孤児を受け入れているこの施設内には学校があり、子どもたちの作品が展示されている部屋に案内してもらいました。既に彼らの作品をポストカードやブックマークなど商品化する取り組みはされていますが、ビジネスとして成り立つにはまだかなりの時間がかかりそうです。もっと彼らが実践的な職業訓練や就労支援を受ける機会があればいいのですが、ここの施設も国から助成を受けることは難しく、スタッフの数も少ない中で、寄付金などの資金調達を行うにも限界があるように感じます。また子どもたちの宿舎では、ベッドから動くことのできない難病を抱える子どもも見かけました。ここで生活する子どもの中には、障害を持っているからといって親に手足を縛られていた子もいました。これも人権問題の一つです。インドネシアではこうした NGO 団体の活動が活発になってきているとはいえ、未だに政府からの援助を受けることが困難なため運営がかなり難しいというのが現状です。</p>



	<p>レストランで昼食をとった後、私が明後日からお世話になる大学付属の人権研究センターPUSDEMA と、英語の Sticing Help for Jogja を訪問しました。PUSDEMA はキリスト教系のサナタ・ダルマ大学にオフィスを構えるリサーチセンターで、大学と共同して人権に関するセミナーの実施や広報誌の出版などを行っています。Sticing Help for Jogja では放課後に子どもから社会人まで無料の英語講座を開講しており、少し授業の様子を見学させていただきました。中学生のクラスの子どもたちは日本に興味深々で、日本のアニメや音楽についていろいろと質問されました。</p> <p>その後は FKY というアートフェスティバルを訪れ、バティック製品や革製品などハンドクラフトのお店が並ぶエリアを歩いて回りました。ステージパフォーマンスでは、地元の若者による創作ダンスや、インドネシアの伝統舞踊などを楽しみました。</p>	
<p>9/2 (水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 受け入れ先 NGO への訪問 (LBH, PUSHAM, Project Child) ● ジョグジャカルタ市内観光 (プラバナン寺院群) <p>今日は午前中に私の研修先を2件、人権 NGO 団体の LBH とインドネシアイスラーム大学の人権リサーチセンターPUSHAM を訪問しました。LBH の常任スタッフで女弁護士として人権問題に取り組んでおられる Nasa さんが対応してくださりました。LBH の事務所には人権被害者のポスターが壁に貼られており、結社の自由や表現の自由が侵されているケースや (労働組合への脅迫行為や活動家の学生、ジャーナリストの拷問・殺害事件など)、土地所有権をめぐる問題 (国家プロジェクトによる農民の強制立ち退きなど)、さまざまなケースを紹介していただきました。PUSHAM では、主に人権に関する研究や広報誌の作成、</p>  <p>人権教育の推進や警察のトレーニングプログラム、アドボカシーなどを行っています。9日の午前中は国際人権組織の Komnas-HAM が訪問し、民族マイノリティへの人権侵害をテーマにしたワークショップがあるそうで、参加させていただくことになりました。</p> <p>午後からは、Project Child を訪問。川沿いにある集落の中にあるこの施設では、貧しい子どもたちのために英語やアートなどの教育機会を提供しています。欧米からのボランティアの学生も受け入れているそうで、こうしたボランティア活動への海外からの関心が高まっていることが伺えました。</p>	
<p>9/3 (木)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● インターン研修1日目@PUSDEMA <p>インターンシップ1日目はサナタ・ダルマ大学のリサーチセンターPUSDEMA を訪問し、助手の Dui さんから18日に開催予定の人権セミナー「Trauma Healing and Reconciliation for Victims of Political Violence」についての説明を聞いた後、メイキングビデオを見せていただきました。また、同大学でインドネシアの宗教マイノリティに詳しい Tri 教授の研究室を訪問し、ムスリムのマイノリティグループ「アフマディー教徒」の人々に対する人権侵害の西ジャワやロンボク島などで起きているケースについて詳しく話を聞くことができました。</p>	



その後、インドネシアの歴史を教えている Yerri 教授の研究室を訪問し、1965年に起きた軍部による大虐殺の話を詳しく話していただきました。また、ジョグジャカルタにおける宗教マイノリティの人々を保護する取り組みについても紹介していただきました。Piri というジョグジャカルタ市にある教育施設では、アフマディー教徒の子どもたちを受け入れ小～大学まで同じキャンパスで勉強することができます。他にもこうした宗教マイノリティの人権保護活動を行う NGO 団体はジョグジャカルタに特に多く存在しているとのこと。その一つ Interfidei という団体の代表の連絡先も教えていただきました。今後の研究を進めていく上で役立つ情報が得られました。



9/4 (金)

● インターン2日目@PUSDEMA

今日は助手の Dui さんと Selvia さんと一緒に、女性人権団体 KIPPER を訪問。KIPPER は、グルワニ (Gerwani) と呼ばれる共産党系女性組織のメンバーで、1965年に起きた大量虐殺の際、政治犯罪者として拷問や投獄、性的暴力などの被害を受けた当時の被害者女性たちが、女性の人権保護団体として立ちあげました。1965年に起きた事件の人権被害を訴える団体は数多く存在していますが、女性だけに特化して活動しているのは KIPPER だけだそうです。2006年に発足して今年で9年目になる KIPPER は、現在は学生ボランティアなども合わせて20名ほどのスタッフで活動しています。政府からの助成は受けることは難しく、大学での講演や、自分たちで手作りの手芸品やお菓子などを販売しながら資金を得ているそうです。



被害者女性らの多くは高齢で、あと数十年もすれば被害者から生の声を聞くことはできなくなります。「特に若い人にもっと関心をもってほしい」という彼女らの言葉には重みがありました。インタビュー後、彼女らが朝から準備してくれていた昼食を一緒にいただきました。突然やってきた私にこんなに温かくもてなしてくださって本当に感謝です。とても有意義なインタビュー訪問でした。

その後は Anak Wayang Indonesia に他の研修生も集合して、各自それぞれの研修先での出来事や感想をシェアしたり、最終日の送別会で披露する歌とソーラン節の練習をしました。

その後は Anak Wayang Indonesia に他の研修生も集合して、各自それぞれの研修先での出来事や感想をシェアしたり、最終日の送別会で披露する歌とソーラン節の練習をしました。

9/5 (土)

- 文化体験 (ボロブドゥール遺跡、プラバナン寺院、ジャワの伝統舞踊)
- ソーシャルプロジェクト Podo Nara を訪問

今日は世界遺産で世界最大級の仏教寺院ボロブドゥール遺跡へ。滞在時間わずか1時間ちょっとと広大な敷地を回るには十分な時間はありませんでしたが、遺跡の頂上から遺跡公園全体が見渡せる圧倒的なスケール感と神秘的な仏像や彫刻に感動しました。聞いた話によると、ボロブドゥール遺跡を外貨誘致の手段として政府が観光地開発を進める過程で、地域住民が負担を強いられる原因にもなったそうです。



その後は **GMB** インドネシアチームの学生が取り組んでいる放課後の教育支援活動を訪問。中学生くらいの子どもたちから一人ずつ流暢な英語で自己紹介と将来の夢を発表してくれました。医者や警察、サッカー選手の他に「起業家」と答える子が多いことに驚きました。Podo Nara では、放課後の英語学習だけでなく、ボランティアの大学生などが中心となって子どもたちに将来の職業について関心を持ってもらおうと、自分たちの夢を仲間と共有する夢プロジェクトも実施しています。インドネシアではサイドビジネスとして自分で起業する若者も多く、起業することへの抵抗とか懸念があまりないのだと思います。また簡単な日本の文化をクイズを交えて紹介し、子どもたちも楽しんでくれた様子でよかったです。



子どもたちからはけん盤ハーモニカの演奏と一緒に日本の「心の友」を歌ってくれました。自国の歌をこうして練習して歌ってくれるのは大変嬉しいです。

その後、プラバナン寺院を観光し、夜は屋外で行われるジャワの伝統舞踊「ラーマーヤナ・バレエ」を観光。きらびやかな衣装と迫力のあるダンスがとても印象的でした。


9/6 (日)

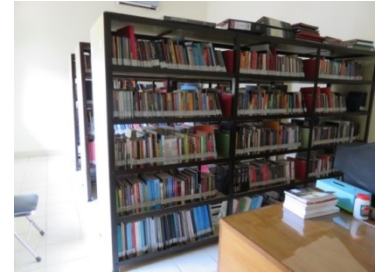
- 文化体験 (お好み焼きパーティー、ガムラン演奏体験)

今日は研修生の一人の研修先 Sticking Help for Jogja の子どもたちを招待して日本の料理を食べてもらおうと、お好み焼きパーティーを開きました。ホストマザーも親戚を招集して私たちにインドネシアの伝統料理を振る舞おうと早朝から準備してくれていました。参加してくれた子どもたちもそれぞれインドネシアの食べ物を持参してくれていて、お好み焼きパーティーというよりは、日本とインドネシア両国の食文化を紹介する文化交流イベントとなりました。お好み焼きもインドネシアの子どもたちにとっても好評で美味しく食べてくれました。

お好み焼きパーティーの後は、近所でガムランというインドネシア伝統的な民族音楽楽器の演奏を体験しました。銅でできたけん盤をリズムのパターンの組み合わせをひたすら繰り返し演奏します。単純に見えて他の演奏者との息を合わせるのが難しく、次第に自分の音が正しいのかも不安になってきます。ふつうの観光ではなかなかできない貴重な文化体験ができました。



	た。
9/7 (月)	<p>● インターン研修3日目@PUSHAM</p> <p>PUSHAM を訪問、インドネシア・イスラーム大学で人権法の講義を担当している Eko 氏からインドネシアの人権問題について詳しくお話を伺いました。PUSHAM では6つの社会的弱者（こども、女性、障害者、宗教マイノリティ、民族マイノリティ、セックスマイノリティ）の人権擁護と民主主義をビジョンに掲げ、人権に関する研究やセミナーの開催、人権教育やアドボカシー活動などを展開しています。インドネシアの警察組織の汚職や軍事訴訟法の改正が進まず、未だに軍人の犯罪を一般の刑法で裁くことができない問題などのお話を聞きました。また宗教マイノリティへの人権侵害については、ロンボク島でのアフマディー教徒の人権保護活動を行う国際人権組織の JRS や、日本の千葉大学でインドネシアの宗教マイノリティについて研究している中村美津子教授などを紹介していただきました。</p> <p>午後からは国際人権組織 Komnas-HAM とのミーティングに参加させていただきました。内容はインドネシアにおけるパーム農園開発における人権問題についてでした。パーム油のとれるアブラヤシの大規模な農園開発に伴い、プランテーション企業と先住民の間で土地利用権をめぐる紛争が起きています。また現地住民の労働条件や大量の農薬使用なども人権問題として注目を集めています。以前からインドネシアのパーム農園をめぐる問題は耳にしたことはありましたが、今回、法律の面も詳しくお話が聞くことができ、紛争の背景やそれに関する NGO の取り組みなど理解を深めることができました。</p> <p>また、PUSHAM のオフィスには図書館スペースがあり、人権に関する本や論文など英語で書かれたものも多くありました。</p> <p>有用な情報を得ることができました。</p>
9/8 (火)	<p>● インターン研修3日目@LBH</p> <p>● 11日シンポジウムの打ち合わせ、送迎会パフォーマンスの練習</p>  <p>今日は午前中、LBH で行われていた朝会に参加しました。インドネシア語で行われたため、残念ながら内容はほとんど理解できませんでしたが、学生ボランティアで法律を学んでいる Isti さんに朝会の内容のフォローアップをしてもらいました。LBH はインドネシアの NGO 団体の中でも長い歴史を持つ人権擁護組織で、もともとは法律扶助サービスなどを行っていた組織から派生しました。一般市民に開放している法律相談所をはじめ、トレーニングプログラムを通じたコミュニティ開発や他の小規模 NGO 組織のエンパワメント、広報誌の発行やキャンペーンを通じたアドボカシー運動も行っています。午後はオフィス内を見学し、スタッフの方からお話を聞いたり、日本の人権問題について質問されたりしました。</p>



インターン研修後、Anak Wayang Indonesia に他の研修生も集合して、11 日に行うゴミ問題のワークショップについての打ち合わせと、送迎会でのパフォーマンスの練習を行いました。



9/9 (水)

● インターン研修 4 日目@PUSHAM、LBH

午前中は PUSHAM を訪問し、Komnas-HAM との民族差別・人権問題に関する共同ワークショップに参加。ホストブラザーが通訳として会議の内容を随時説明してくれたおかげで内容を理解することができました。プリブミ（インドネシア人）とノン・プリブミ（中国系の移民など）の間には長年争いが続いており、ジョグジャカルタにおいてもとりわけ土地所有権をめぐる問題は深刻です。中国系の移民はビジネスにおいて成功する者が多く、ジョグジャカルタのホテル経営や大型ショッピングモール、観光地運営はほとんど中国系の移民が占めています。こうした状況から中国系移民はプリブミから差別の対象になることが多く、地方政府も中国系の人々に対し差別的な政策をとり、プリブミを優遇した結果、両者の溝がますます深まったと考えられます。このワークショップを通しての結論は、民族差別は民族の違いから起きるのではなく、その背景にある経済的・政治的な理由から起こり得るものだという事です。ジョグジャカルタの民族問題の現状とその背景を理解するいい機会になりました。



午後からは LBH を訪問、人権に関するセミナーに参加しました。一般市民に開放しているセミナーのようで、スタッフらが順番に市民からの意見や不満に耳を傾けていました。クーラーがない小さな会議室に人々が密集していたため非常に暑苦しい環境にも関わらず、スタッフを含めみんな熱心に議論を交わしセミナーは 2 時間半にも及びました。



9/10 (木)

● インターン研修 5 日目@LBH

今日は LBH でのインターン研修最終日。PUSDEMA にも視察で訪れていた Komnas-HAM の一部のメンバーが LBH で無料の人権被害に関する法律相談デスクを一般市民向けに開放しているところを見学させていただきました。年に一度、LBH と Komnas-HAM が共同で相談デスクをオープンさせているそうで、ちょうど私のインターン研修と重なってその活動の様子を見学できたのはラッキーでした。相談には次々と人が訪れ、学校でのトラブルや近所の教会で起きた争いなど、スタッフに相談していました。Komnas-HAM は国の機関であるため、スタッフはほとんどが公務員です。LBH や PUSHAM のようなローカルな NGO や大学のリサーチセンターなどと積極的に協力して情報交換を行ったり、市民の声を実際に聞いたりしているそうです。



午後からはインドネシアにおけるセクスマイノリティへの人権に関するセミナーに参加しました。インドネシアでは宗教上の問題から、LGBT の人々は社会から差別や暴力を受けることがあります。とりわけイスラーム法を適用しているアチェ州では LGBT に対する人権侵害のケースが多く見られます。同性愛の罪に問われたカップルは公衆の前でむち打ちの刑にあうといったケースも報告されています。日本でもまだ彼らに対する差別が根強く残っていますが、インドネシアのようなイスラーム社会では自分が LGBT であることをカミングアウトして声をあげることは大変勇気のいる行為です。それに臆せず、自分たちの権利のために活動している彼らに大変感銘を受けました。



9/11 (金)

- プレゼンテーション@PUSDEMA
- ゴミ問題について考えるワークショップ@UGM

午前中は PUSDEMA にて日本の NGO の抱える問題や、人権問題についてのプレゼンテーションを行いました。日本でもアイヌ民族の人権や部落問題、在日朝鮮人・外国人移民への差別など単一民族の国といわれていても民族マイノリティに対する人権問題はたくさんあります。国の政策である程度保護されているものの、草の根レベルにおいては NGO 団体の職員やボランティアが担っているというのが現状です。他国の人々が関心を抱いているのに肝心の自分自身はあまり注意を払って考えたことがない、というのはしばしば起こります。プレゼンやディスカッションを通じて自国の問題について目を向けるいい機会になりました。

午後からはガジャ・マダ大学にてゴミ問題を考えるワークショップを開催しました。日本人研修生からも日本のゴミ問題への取り組みについて紹介しました。今回の GMB プロジェクトに助成していただいているジャパン・ファンディングの後藤さんにもお越しいただき、ご自身の留学の経験談から3つの「C (Challenge, Continue, Communicate)」についてお話していただきました。



ワークショップでは、チームに分かれて、ゴミ問題を解決するためのクリエイティブでかつ持続可能で身近な活動から始められるような仕組み・サービスについて案を出し合い、ビジネスプランとして模造紙にアイデアをまとめる作業をしました。私のグループでは開始後早々いろんなアイデアが飛び交い、最終的にペットボトルの消費を減らす取り組みから「1人1タンブラー」というキャンペーンを大学全体で行うという案に絞りました。タンブラーを持参した人は水を低価格で得ることができ、それも学生証に IC チップを埋め込み、カードで簡単に割り引いて支払いできるというシステムです。水を供給してくれるスポンサーや新しく学生証を発行してくれる大学のオフィスなど、より現実的なところまで踏み込んだ議論ができていたと思います。何よりインドネシアの学生のアイデアを短時間で形にする柔軟性に驚きました。



深刻なゴミ問題を考える上で、持続可能にするた

めのビジネスの視点で議論することや、より身近な問題に引き寄せて、キャンパスから発信できるような明日からでもすぐに行動を起こせるようなプランを考えるということは、お互いのゴミ問題の意識を高める上で非常に大切なことだと思います。とても有意義で、刺激を受けたシンポジウムでした。

9/12 (土)

● 全体の振り返り、送別会

今日はお昼過ぎまで家でゆっくりしていました。ホストファミリーと近所に朝ごはんを食べに行き、その後は部屋でくつろぎながら家族の古いアルバムなどを見せてもらい、昔の話をたくさんしてもらいました。

夜は GMB プログラムの全体の振り返りということで、この2週間お世話になったホストファミリーや研修先のスタッフの方々を招いて、この研修を通じて感じたことや学んだことを共有しました。今回、自分の研究に関連して、人権問題に取り組むリサーチセンターや NGO 団体を訪問でき、直接話を聞いたり、セミナーに参加したりする機会に恵まれ大変有意義な研修となるとともに、研修を通じて得られた情報やネットワークを活かし、今後さらに研究を進めていきたいと思っています。

またインドネシアで生活する中で感じた点や気づかされた点も多くありました。さまざまな民族・宗教・文化を持つ人間が同じ空間で生活しているインドネシアでは、みんな自分自身の生まれ育った故郷に対し誇りと愛着を持っており、同時に、他の地域の文化に対しても非常に寛容であるところを多くの場面で感じました。

また、GMB で LO を務めてくれた学生をはじめ、たくさんの同世代の若者と交流する中で、インドネシアの若者の社会問題への関心・意識の高さを感じました。日本の学生にとって海外旅行など当たり前の時代で、そこに貴重な経験とか学びとかという目的意識はあまりないように思います。恵まれ過ぎた環境に満足してしまっているせいか、謙虚な気持ちで外国から学ぼうとする姿勢も薄れていると思います。インドネシアで出会った若者は、海外から新しい技術や仕組みを学び、それを自国の発展に活かしたいというハングリー精神や、自国の未来を背負っているのは自分たちなんだという意識がとても強く感じられました。本当にたくさんの刺激を受けた2週間でした。

受け入れ先のご家族や研修先の方々からも一人ひとり感想とエピソードを共有していただいた後、練習してきたソーラン節と、GMB のテーマ



ソングを日本語・インドネシア語の両言語で披露しました。最後はお世話になった GMB のメンバーにお礼のメッセージカードとギフトを渡し記念撮影をしました。



露
バ
て

9/13(日)

● 帰国

午前中は写真の整理や荷造りをしながらホストファミリーとの時間を楽しみました。ホストマザーは朝から市場で大量のマンゴーとコーヒー豆を買ってきて、お土産に持たせてくれました。GMBの学生らが空港まで見送りに来てくれ、最後の別れを惜しましました。

このプログラムを通じて本当にたくさんの貴重な経験をすることができました。約2週間、私たちをボランティアで快く受け入れてくださったホストファミリーの方々、研修先の方々、そして最後まで献身的に私たちの活動に立ち会ってくれたGMBの学生たち、Dedeさん、原田さんに心から感謝しています。

この経験を活かし、近い将来恩返しができるよう今後の活動に力を入れて頑張っていきたいと思います。

